

COLORAMA

L'ENCICLOPEDIA TUTTA A COLORI

21世紀
世界百科

カロラマ

6

監 修

上智大学名誉教授

小 林 珍 雄

早稲田大学教授

坂 崎 乙 郎

日本イタリア京都会館理事長

聖心女子大学教授

京都大学名誉教授

野 上 素 一

日本育英会会長

前 東京大学総長

林 健 太 郎

(50音順)

© Arnoldo Mondadori Editore - Milano 1970
Originally Published in Italy under the title 'COLORAMA',
Published in Japan 1979
by Shufu - to - Seikatsu - Sha Co., Ltd., Tokyo.
Japanese translation rights
arranged with Arnoldo Mondadori Editore - Milano
through Tuttle - Mori Agency, Inc., Tokyo.
Credit lines and original publications
of the photographs and materials
used in these books are listed
on the 4th page of the supplement

たまやすで(目) Glomerida (学) 節足動物倍脚類の1目。体長7～11ミリで、11～13対の背板と17～23対の歩脚をもつ。生殖肢の位置から、ヤスデとは区別できる。タマヤスデ類は世界の温帯にひろく分布しており、体をまるめることや、植物質を食うことなどダンゴムシとよく似ている。林中の陰地でよく見かけられ夜行性である。

タマヨ Rufino Tamayo 1899～ メキシコの画家。オアハカ州の出身で、国立美術学校に入学したが、アカデミズムに反抗して1年で退学し、独学で表現主義的な画風を確立した。伝統的なメキシコ芸術からインディオ特有の美を摂取し、1926年にニューヨークで最初の個展をひらいて成功をおさめたのち、28年まで同地に滞在、マティス、ブラックらの影響をうける。帰国後、美術学校教授や文部省美術教育部長などをつとめ、リベラ、シケイロス、オロスコとともに、現代メキシコ画壇四巨匠の1人となったが、彼の作風は、もっともメキシコ的であり、革命的な画題は選んでいない。また、壁画よりタペストリーにすぐれ、「可憐な少女」(37)、「白の裸婦」(43)、「慟哭」(53)などの作品が有名。

タマヨイバウス Manuel Tamayo y Baus 1829～98 スペインの劇作家。別名ホアキン・エスパネス。マドリッド生まれ。両親は著名な俳優。19世紀後半のブルジョア演劇の全盛期の作家で、エチエガイ出現以前のスペイン演劇を代表する。ロマン主義から出発してリアリズムに接近、はじめ「大公爵夫人」(1854)、「狂恋」(55)など

シラーふうの歴史劇を書いたが、のち風俗喜劇へ傾いた。晩年は国立図書館長に就任。代表作「新しいドラマ」(67)。

タマリンド Tamarindus indica (学) 双子葉植物マメ科の常緑高木。エチオピアまたは中央アフリカの原産。古い時代にインドに伝わり、今日では熱帯地方でひろく栽培する。樹高10～25メートル、葉は羽状複葉で、4～5月ごろ5弁の淡黄色の花をつける。果実には糖分、酢酸、くえん酸などをふくむが、とくにビタミンB類の含有率は果実のなかで最高といわれる。果実はカレー粉、菓子、アイスクリームの原料に利用するほか、一部地域では解熱、整腸、通便用の薬剤とする。

ダミア Damia 1892～1978 フランスの女性シャンソン歌手。さまざまな職を経て1911年、アラブラ劇場からデビュー、低いしゃがれ声と黒い地味なドレスで、絶望、失恋など暗いテーマのものを歌い、特異な地位を築いた。第1次世界大戦中の「かもめ」は傑作といわれ、また「暗い日曜日」は自殺者まで出したことで有名。

ダミエッタ Damiatta エジプト北部、ナイル＝デルタ北東部にある同名県の県都。人口9万8000(1970)。ポートサイドの北西約50キロにあり、ナイル川のダミエッタ河口の上流約13キロ、マンザラ湖西岸にある。十字軍に滅ぼされた同名地は現在地より約10キロ南にあり、現在の地は13世紀後半になってマムルーク朝のバイバルスが十字軍を撃退して再建した町で、1798年にふたたびフ

ランス人に征服された。現在、ナイル＝デルタ北部の南工業の中心地で、農水産物の集散加工地である。精米、綿紡績、絹織物、皮革などの工業もおこなわれる。

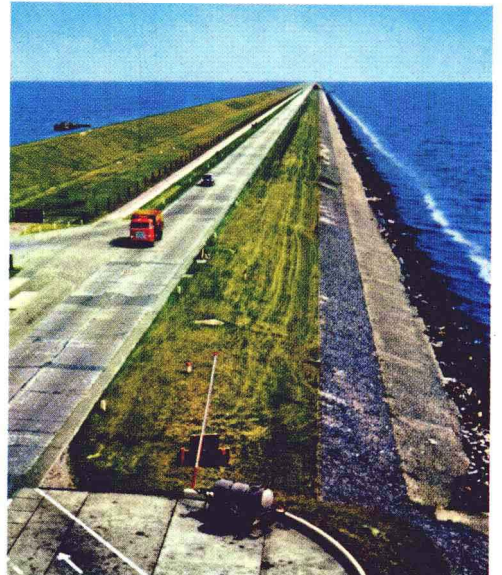
タミルナドゥ Tamil Nadu インド南東部にある州。面積13万平方キロ。人口4110万3000(1971)。州都マドラス。西でケララ州、北でマイソール、アンドラ＝プラデシの各州に接し、東はインド洋ベンガル湾にのぞむ。住民は大部分がタミル人で、タミル語が用いられる。旧名はマドラスで、1968年に現在名に改称された。農業を主産業とし、ラッカセイ、ワタ、サトウキビ、ココナツなどを栽培する。クロム鉱、マグネサイト、鉄鉱石などの鉱物資源もある。また、製糖、たばこ、綿紡績などの工業もさかんである。主要都市としてはマドラスのほか、カッターロール、ネガバティナムがある。

タム Igor Yevgenyevich Tamm 1895～1971 ソビエト連邦の物理学者。モスクワ大学教授、科学アカデミー会員を歴任。はじめ結晶光学や固体による光の散乱の量子論などを研究した。のち量子力学とその応用分野に移り、核構造、核内粒子の性質などを研究した。中性子の磁気能率や核力の研究、熱核反応の制御など多くの業績がある。とくに著名なのはフランクと共同のチェレンコフ放射の理論的解明で、1958年にノーベル物理学賞を受賞。

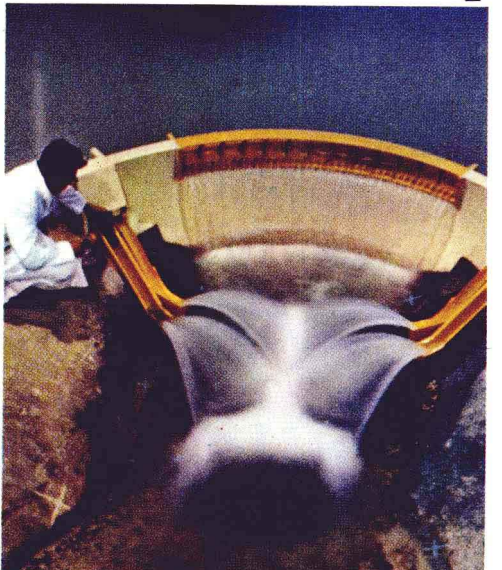
ダム → |写真項目|



1



2



3

ダム dam (英) 水をせきとめる堤防のこと。河川につくられる発電用ダムや砂防ダム、山間部などにつくられる貯水用ダム、湾岸につくられる干拓用ダムなどがある。実際には、発電、上水道、灌漑、水防などを兼ねた多目的ダムが多く建設されている。ダムはその建築材料により、アースダム(土)、ロックフィルダム(石)、コンクリートダムに区別される。漏水防止のために粘土を心壁としたアースダムが、昔からもっともふつうにみられるダムである。ダイナマイト砕石で石塊の大量入手が可

能になった近代以降は、大規模なロックフィルダムがつくられた。ロックフィルダムは漏水防止にアスファルトなどを用いる。ダムはその構造により重力ダム、アーチダム、中空重力ダムなどに区別され、アースダムやロックフィルダムは、ダムの重さで水圧を支える重力ダムに分類される。コンクリートは便利な材料ではあるが、重力ダムとして用いる場合、地盤のひずみに弱い、硬化熱の除去が必要、高価格、などの難点があり、今日では水圧のかかる側アーチ状に張り出したアーチ＝コンクリ

ートダムが多くなった。この形式のダムでは力学上、ドーム状に設計されるものも多い。また、バットレス(控壁)を用いたダムもコンクリート重力ダムを改良したものである。写真①はバットレスのあいだにアーチを用いたマルチプルアーチダム。アーチダムは、ダムが一体となっているので水圧によく耐え、コンクリートの量も少なくてすむが、岩盤の調査や設計に注意が必要である。写真②はダムの模型による安全性の調査。③はオランダの海岸線を守るダイク(堤防)。

ダム Carl Peter Henrik Dam 1895～1976 デンマークの生化学者。ニワトリのコレステリンの代謝を研究中、血液凝固作用があるビタミンKを発見した。のちドイツはその単離に成功し、化学構造を明らかにした。1943年、ドイジーとともにノーベル生理・医学賞を受賞。

タムガディ ———— |写真項目|

ダムガンいせき ———— 遺跡 イラン北東部、エルブールズ山脈南麓の都市ダムガン周辺にひろがる、先史時代からササン朝ペルシアにかけての遺跡群。南郊のテベ＝ヒッサールの3層からなる先史遺跡はとくに重要で、1931～32年にE.シュミットによって発掘された。第1層からは鳥獣などを描いた彩文土器が、第2層からは黒灰色の研磨土器が出土し、青銅器文化としては末期にあたる第3層になると、中国の黒陶を思わせるものが増え、東西文化の交流を研究するうえできわめて興味深い。

ダムダムだん ———— 弾 人体に命中すると、弾頭内部の鉛がとび出て膨張するようにつくられた小銃弾の一種。ふつうの銃弾は人体を貫通するだけであるが、ダムダム弾にあたると、露出した鉛によって損傷が大きく、かつ複雑になり、被弾者に致命傷を与えることができる。また、死亡にいたらない場合でも、回復度を遅くする。19世紀にイギリスが、植民地インドの民族運動を弾圧するために考案、カルカッタ近くのダムダム兵器工場で製造させたためこの名で呼ばれるようになった。人道上的見

地から、1907年の第2回ハーグ会議でこの銃弾の使用が禁止されたが、イギリス、アメリカ合衆国両国はこの条約の批准を拒んだ。

ダムディンスレン Tsendiyn Damdinsuren 1908～ モンゴルの小説家、詩人、文献学者。ナツァクドルジとともに現代モンゴル文学の創始者とされ、人民蜂起と自己解放を呼びかけた中編「捨てられた娘」(1929)によって、モンゴル新文学の道をひらいた。また、文字改革、文献学分野でも活躍し、「元朝秘史」現代語訳など、すぐれた業績をあげた。モンゴル人民共和国国歌は彼の作詩。

ダムロッシュ Leopold Damrosch 1832～85 ドイツ生まれの作曲家、バイオリニスト、指揮者。リースらに学び、1854年にベルリン大学を卒業後、バイオリニストをふりだしに音楽活動をはじめ、ワイマールの大公管弦楽団のソリスト時代にはワーグナーらと親交を結んだ。58年ころからブレスラウで指揮者となり、62年にブレスラウ＝オーケストラ協会を設立、以後、音楽団体の結成に尽力した。71年にはアメリカ合衆国に渡り、ニューヨークで指揮者としてデビュー、ワーグナーの作品などを紹介した。作曲はカンタータ、バイオリン協奏曲など。

ダムロッシュ Walter Damrosch 1862～1950 ドイツ出身のアメリカ合衆国の指揮者。指揮者レオボルトの子としてブレスラウに生まれ、1871年、父に従って合衆国に移った。85年からオラトリオ協会、メトロポリタン

歌劇場などを経て、1903～27年、ニューヨーク＝フィルハーモニー管弦楽団の常任指揮者として活躍した。

ためんたい 多面体 平面多角形だけかこまれている立体。たとえば、4つの三角形でかこまれた四面体も、もっとも簡単な多面体である。多面体をつくるひとつひとつの平面多角形を多面体の面といい、面の数 n ($n \geq 4$)によって n 多面体と呼ぶ。2つの面が共有する多角形の辺を多面体の稜または辺といい、多角形の各頂点を多面体の頂点という。また、同じ面に属さない2つの頂点を結んだ直線を多面体の対角線という。多面体のなかで、任意のどの面を延長させても他の面と交わらないとき、これを凸多面体という。また、ひとつひとつの面が合同な多角形であって、かつそれぞれの頂点の多面角が等しいとき、これを正多面体という。

たもうしょう 多毛症 主として内分泌障害によって、正常部位以外に硬毛が生える疾患。毛髪過多症ともいう。副腎皮質機能の高進と関係が深く、女子の場合、卵巣の未発達によるものが多い。後天性には青春期に発現し、男子では硬毛の発育異常がみられ、女子では、ひげ、すね毛など男子と同じような発毛がおこる場合がある。

たもうるい(綱) 多毛類 Polychaeta (学) 環形動物の1綱多毛類に属するものの総称。ほとんどが海産で、種の数は1万以上といわれる。体は細長く、基本的には頭部と多数の体節からなる胴部からなる。ふつう胴部の



タムガディ Thamugadi アルジェリア北東部にあるローマ時代の小都市。現在名はティムガド。ローマ時代の都市遺跡がよく残った例として知られる。オーレス山地(標高2328メートル)の北側斜面、標高1072メートルの高地に位置し、同山地の南には広大なサハラ砂漠がひろがっている。紀元100年、トラヤヌス帝の命によって建設された植民市で、当時はコロニア＝ウルピア＝マルシアナ＝トラヤナ＝タムガディと称された。今日ではまったく廃墟と化してしまったが、サハラ近くの辺境都

市としては、都市計画にすぐれ、諸施設がよく整備されていた。とくに公共浴場、広場、劇場、図書館などの公共施設跡は、昔日の繁栄をよく物語っている。要塞、あるいは砂漠への入口の砦として、もっぱら軍事的機能を重視した設計がなされたらしく、市は3メートル以上の厚さの壁でかこまれている。城壁内は、南北と東西にのびる道路網で区画され、2本の主要な通りが直交する交差点は、縦100メートル、横60メートルの公共広場、図書館などの施設のほか、市場やクリア集会所があって、市の

中心部をなしていた。城壁の外側には、多数の宗教的建築物や庶民の住居のほか、壮麗な階段と美しい扉のある六柱式のカピトリウムがあった。トラジャンアーチと呼ばれる中央の扉には、両側に4本の柱、壁龕(へきがん)、切妻のある円筒形の建物が付属し、その上の丸天井が天空に美しい弧を描いていた。タムガディは、4世紀にローマ教会とドナトゥス派の宗派対立の場となり、のち、アラビア人によって滅ぼされた。写真●はタムガディの遺跡。

体節には「くいほ足」と呼ばれる小突起があり、その先端には剛毛が生えている。多くは雌雄異体で、大部分の体節に繁殖力がある。生態的に自由移動性の遊在目と、固着性の管をつくってそのなかにすむ定在目に分類するが、この分類は多分に便宜的なもので、両者に例外が少なくない。遊在目にはイソゴカイ、イトメ、イソメなど、定在目にはカンザシゴカイ、ケヤリムシなどがある。

ダモダルガわ —— 川 Damodar R. インド北東部を流れる川。全長約550キロ。チョタ＝ナグプル高原に発し、東流して西ベンガル州にはいり、南東に流れを変えてカルカッタの南西でフーグリー川に合流する。1948年に着手したダモダル河谷開発計画(DVP)によって、ビハール州内にティライヤ、コナールなどの多目的ダムが建設され、また西ベンガル州のドゥルガブルに大分水堤が建設されて以来、水量調整、発電、灌漑が可能になり、下流域はインド有数の稲作地帯になっている。また中流域のビハール州は重要な鉱産地帯である。

ダヤクぞく —— 族 東南アジアのボルネオ島内陸に居住する非マライ人の総称。ムルト、クレマンタン、陸ダヤク、海ダヤク、ピアジュ、カヤン、シアンなど数多くの種族に分かれ、人種的にはほぼモンゴロイドに属する。十数家族から数十家族が長大な杭上家屋で共同生活をいとなみ、おもに焼畑農耕に従事している。言語はインドネシア語系統のもので、宗教はアニミズム(精霊崇拜)が中心。かつては首狩りの風習があった。

ダヤーナンダサラスバティー Dayānanda Sarasvatī 1824～83 インドの宗教改革者。本名ムーラ＝シャンカラ。グジャラート地方のブラーフマナの出身。20歳で出家し、インド各地の聖地を遍歴しつつ、〈ベータ〉の研究とヨーガの修行に没頭。1875年、ボンベイにアーリア＝サマージを設立し、形態化したヒンドゥー教の実態を批判するとともに、〈ベータに帰れ〉ととなえて民族精神の純化を主張、当時のインド社会に多大の影響をおよぼした。

たやまかたい 田山花袋 1871～1930 日本の小説家。本名録弥。群馬県生まれ。1891年、尾崎紅葉の門にはいり、硯友社系作家として活躍、やがてゾラ、フロベールの影響を受け客観主義に転じ、「蒲団」(1907)、「田舎教師」(09)で、島崎藤村とならぶ自然主義文学の代表作家となった。さらに「髪」(12)以後は観念主義に傾き、「時は過ぎ行く」(16)、「残雪」(18)から晩年の「百夜」(27)にかけて、円熟した個性のなかに仏教的諦念を示した。

ダヤンカン Dayan Khan ?～1524? 中国、明朝中期の内モンゴルのカン(在位1487?～1524?)。漢字は達延汗をあてる。タタール(韃靼)部において、明朝との朝貢貿易で力をたくわえてイスマイルなどを追い、さらにオイラートを討って内モンゴルを平定。これを左右両翼の各3万戸に分けて子弟を分封し、チンギス＝カン以後の全モンゴル再征覇の基礎を築いた。

ターユイ 大庚 中国南東部、江西(チャンシー)省の南

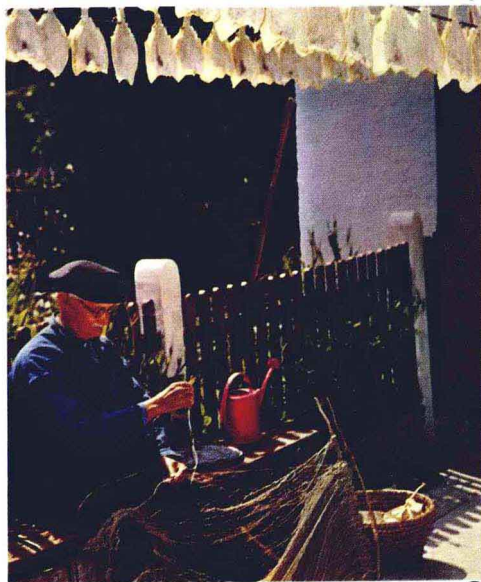
西部にある同名県の県都。広東(カントン)省の境を走る大庚嶺(ターユイリン)山脈の北麓にある。宋の南安(ナンアン)軍、元の南安路、明および清の南安府の中心都市で、唐代に県がおかれて以来の県都である。タングステン鉱山で知られ、紙や木材も産する。北東の贛州(カンチョウ)、南の広州(コワンチョウ)と交易をおこなう。

ターユンホー 大運河 中国東部、北京(ペキン)から杭州(ハンチョウ)を結ぶ運河。河北(ホーベイ)、山東(シャントン)、江蘇(チャンスー)、浙江(チョーチャン)の4省を南北につらぬく。また、海河(ハイ川)、黄河、淮河(ホワイ川)、長江、钱塘江(チャンタン川)の五大河川流域を結ぶ。全長1500キロ。建設は春秋時代に淮河と長江を結んだ邗溝(ハンコウ)が先駆で、その後、各時代にすこしずつ建設され、元代に現在の原型ができあがり、明、清代に改修がつづいた。大運河建設の歴史的背景には、江南が開発されて穀倉となったこと、長安、開封、北京などの政治の中心地や北辺の軍隊に食糧や塩を輸送する必要性の増大などがあげられる。完成当時は、約1800キロであったが、1958年の改修で、現在の長さになった。現在は鉄道網や海運が発達して、水運の利用価値は失われつつあるが、その一部は活発に利用されており、とくに淮陰(ホワイイン)と揚州(ヤンチョウ)のあいだは解放後の改修で3000トン級の船が航行できるようになった。ほかに洪水防止、灌漑、発電にも利用されている。

たら ——— |写真項目|



1



2



3

たら(目) Gadiformes (学) 硬骨魚類タラ目に属するものの総称。マダラ、スケトウダラなどのタラ科、南半球にも分布するハイク類のメルルーサ科、深海魚のソコダラ科などがあるが、その特徴から、硬骨魚類のなかでも早い時期に枝分かれして独自の進化をとげた仲間とされている。〈たらふく食う〉という言葉があるように、たらは大食いで、稚魚のうちはプランクトンなどを食べるが、成魚は底生魚類、甲殻類、軟体動物など、手あたりしだいになんでも食べ、メルルーサでは共食いもする。

繁殖力も強く、卵は200万～500万粒も生み、成長も早くてマダラでは4年で50センチをこえ、毎年40～70パーセントずつ体重がふえる。タラ科の代表種のマダラは、北太平洋や北大西洋などの寒い海にすみ、太平洋産で体長1.2メートル、大西洋産で2メートルに達する。背面は青味をおび、茶色の斑紋があり、銀白色の腹部が張り出し、大きな口の下に短いひげが1本ある。世界中で大衆的な食用魚として用いられ、年間漁獲量は700万トン以上に達し、カタクチイワシ類につぐ主要な水産資源となっ

ている。写真①はタラ漁。肉は白身で、鮮魚として食べるほか、冷凍品や干物にするが、北ヨーロッパでは塩漬品が冬季の重要な貯蔵食品として用いられている。写真②③はタラの乾燥。スケトウダラはやせ型で下あごが突き出し、体長も65センチほどである。北太平洋に分布し、おもに日本が漁獲し、食用にあてている。タラ類は肉や卵を食用にするほか、肝油、にかわの原料、飼料に利用されるが、近年では乱獲がたたって、どの海域でも魚形が小さくなったといわれる。

ターラー Taler 16世紀ドイツの銀貨。ポヘミア地方のシュリック伯爵家が、領内ヨアヒムスタールから採掘された銀で鑄造させた銀貨〈ヨアヒムスタール〉の略称である。のちに、ヨーロッパ各地で流通した。

ダライラマ — [写真項目]

タラカンとう — 島 **Tarakan I.** インドネシア、ボルネオの東カリマンタン北東岸の島。面積384平方キロ。人口1万2000。スサヤ川河口に位置する。19世紀末にロイヤル＝ダッチ石油会社が石油の発掘に成功し、石油産地として有名になった。南東部にバム＝シアン油田、北西部にジョアタ油田があり、原油は重質油で、船舶などの燃料油やディーゼル油に最適である。南東部のタラカンは原油積出港として発展している。

タラゴナ Tarragona スペイン北東部、地中海沿岸にある港湾都市で、同名県の県都。人口7万8200(1970)。バルセロナの西南西約94キロに位置する。218年、ローマが占領して首都とし、イベリア半島有数の都市に繁栄したが、のち、ゴートやアラブの侵攻をうけて衰退した。現在、カタロニア南部地方の商工業の中心地で、農産物の集散、加工のほか、製紙、製粉、絹織物、たばこなどの軽工業がおこなわれている。また、ぶどう酒の輸出港として知られるが、貿易港の中心はバルセロナやバレンシアに移っている。市内には古代ローマ貴族の邸宅やローマ時代の城壁、水道などの遺跡が残っている。

タラス Talas ソビエト連邦、キルギス共和国北西部にある都市。人口2万2000(1974)。同共和国の首都フルンゼの西140キロ、南北をタラス＝タウ山脈とキルギス山脈にはさまれたタラス川渓谷にある。標高1280メートルの高地にあり、フルンゼおよび東北東約90キロの地点にあるカザフ共和国のジャンプールには自動車道路が通じている。また、フルンゼとは航空路でも結ばれている。製油、製粉などの食品工業と綿コンビナートがあり、靴製造業もおこなわれる。

ダラス Dallas アメリカ合衆国南部、テキサス州北東部にある都市。人口83万6100(1970)。トリニティ川に面する。1841年、開拓者が建設した町で、70年に鉄道が開通してから綿花の集散地として発展し、1920年ころからは石油開発の拠点にもなった。現在、同州の重要な商工業都市で、付近の綿花を主とする農畜産物の集散および加工地であり、また自動車、化学、機械、製油、航空機、繊維などの工業がさかんである。第35代合衆国大統領J. ケネディは、1963年11月22日、この地で暗殺された。

ダラディエ Edouard Daladier 1884～1970 フランスの政治家。歴史学の教授であったが、1919年に急進社会党の下院議員となり、33年から2度首相をつとめたが、34年2月の右翼暴動で辞職し、その後は人民戦線の結成に努力した。38年、みたび首相に就任し、ミュンヘン会議ではドイツ有和策をとり、さらにドイツのポーランド侵入にさいして弱腰をみせたため、39年9月、宣戦布告

された。40年にドイツに抑留され、第2次世界大戦後、ふたたび国民議会議員に選ばれ、57年には急進社会党党首となった。

ダラート Dalat ベトナム南東部、ラムドン省の都市。人口8万3600(1970)。アンナン山脈の南端に近いランビアン高原にある。標高1500メートル、温度は1年中20度前後で、フランス領時代から避暑地として知られている。付近にはチャ、ゴム、コーヒーなどのプランテーションがあり、高原野菜や果樹も栽培される。郊外には日本の戦争賠償によるダニム＝ダムが建設されている。

ダラートかいぎ — 会議 第2次世界大戦後、南ベトナム南東部、ランビアン高原の避暑地ダラートで、フランスの主催により3回にわたって開かれた国際会議。第1回会議は、1946年4月17日から5月11日まで、フランスとベトミン(ベトナム独立同盟会)の両代表者間で開かれ、インドシナ戦争の休戦問題が討議された。46年8月の第2回会議に、フランスはラオス、カンボディア、コーチシナの各代表を招集し、将来のインドシナ連邦の構成を協議した。同年12月からフランスの再侵略がはじまり、インドシナ全域が戦火におおわれたなかで、53年2月、第3回会議が南ベトナムとフランスのあいだで開催され、ベトナムがフランスの援助のもとに、北のホーチミン軍との戦争に突入することを決定した。

タラパカ Tarapacá 南アメリカ、チリ北部の州。面



1



2



3

ダライラマ dalai lama チベット＝ラマ教の最高活仏で、かつてチベットの政治、宗教の両権を掌握していた14名の最高権力者の尊称。ダライはモンゴル語で〈大海〉〈偉大〉を、ラマはチベット語で〈師〉を意味する。ラマ教は、チベットを中心に中央アジア、モンゴル地方でひろく信仰されてきた仏教の一派で、他の宗教が〈仏、法、僧〉を三宝として尊ぶのに対し、三宝にラマを加えて四宝とする。そして、とくにラマを導きの師として厚く敬うところから、ヨーロッパ人がラマ教と呼んだ。

初代は、高徳で知られたチベット人ゲドゥン＝ドゥブ(?～1476)で、ゲルクバ派の学僧であり、観音の化身とみなされた。第2世のゲドゥン＝ギャムツォ(?～1542)は、モンゴル人のあいだに説教をつづけてゲルクバ派の信者を得、同派を隆盛に導いた。第3世ソナム＝ギャムツォ(?～1588)は、さらに内モンゴル方面にラマ教をひろめ、オルドス地方の太守アルタン＝カンの帰依を得た。これら3人のラマは、いずれも先代の没した翌年につぎの代に就位するという関係にあり、ここからダライ＝

ラマの転生が信じられ、後継者を先代が没した日に生まれた子供のなかから選ぶという政教上の方法が採用された。チベットはながらく外部との接触を避け、独特の文化を維持してきたが(写真①②)、1951年、中華人民共和国政府は同国に軍事介入し、同年〈チベットの平和解決に関する協定〉を結んで、中国の宗主権とチベットの自治権を相互に承認した。しかし、59年、国内の反乱から現14世のテンジン＝ギャムツォ(1935～)はインドに亡命を余儀なくされた(写真③チベットを脱出する14世)。

積5万5287平方キロ。人口17万8600(1970)。州都イキケ。北はペルー、東はボリビア、南はアントファガスタ州に接し、西は太平洋に面する。中央部から海岸にかけてはアタカマ砂漠になっている。かつてペルー領であったが、1884年以後、チリ領となった。チリ硝酸塩の産地で、イキケ付近では銀も産出する。主要港としてはイキケのほか、ピスアグア、アリカがある。

たらばかに *Paralithodes camtschatica* (学) 甲殻類タラバガニ科の1種。北太平洋、日本海、オホーツク海、ベーリング海にひろく分布するカニで、比較的浅海にすむ。異尾亜目に属し、本来のカニ類と違って歩脚が3対しかない。脚をひろげると1メートルに達し、最大級の食用のカニとして水揚げされる。20世紀にはいって、日本の水産業により乱獲され、各海域ともに漁獲規制がなされている。近縁種にハナサキガニ、アブラガニ、イバラガニなどがあり、いずれも食用にされる。

ダラビッコラ Luigi Dallapiccola 1904~75 イタリアの作曲家、ピアニスト。オーストリア=ハンガリー領下のイストリアに生まれ、民族的な対立抗争のなかで少年時代をすごした。フィレンツェのケルビーニ音楽院に学び、のち、同校のピアノ科教授となった。シェーンベルク、ベルクらウィーン楽派の影響を受け、十二音技法による作品を発表。なかでもラテンの要素とドイツ的要素とをあわせもつ声楽様式の曲がすぐれているとされる。代表作に、管弦楽曲「バルティータ」(30~32)、合唱

曲「ミケランジェロの詩による合唱曲」(33~36)、ピアノ曲「ソナタ=カノニカ」(42)、歌劇「夜間飛行」(40)、「とらわれ人」(44)、バレエ「マルシア」(43)など。

ダーラム Durham イギリス、イングランド北東部にある同名県の県都。人口2万4700(1971)。ニューキャッスルの南方約20キロにあり、ウィア川の曲流部の内側にそう。かつてはスコットランドへの重要な戦略地点で、この地方の行政、文化の中心として栄えた。古くからじゅうたんの産地として知られる。製鉄、機械、製菓などの工業もおこなわれる。市内を見おろすウィア川岸の台地にはイギリスのロマネスク建築として知られるダーラム聖堂が建っている。このほか、11世紀の城のあとにはダーラム大学がある。

タラヨーテ talayote (スペイン) スペイン領バレアレス諸島のマジョルカ島やミノルカ島などに残る古代の石塔。トウモロコシのような円筒形など、高さ12メートルに達するほど巨大なものが多い。先史時代に要塞の機能をも兼ねた住居として建てられたものと推定される。

タランチュラ tarantula (英) ヨーロッパやアメリカ各地で大形のクモ類につけられた俗名。ヨーロッパでは真正クモ目コモリグモ科の1種ナルボンヌドクグモがこれにあたり、体長2.5センチ。猛毒をもつといわれ、これにかまされると踊り狂って死ぬといわれた。〈タランテラ〉という舞踊はこの伝説からきたと伝えられる。アメリカ

では、トリクイグモ類かトタテグモ類の大形種をタランチュラと呼び、なかには体長9.5センチに達するものがある。フランスの博物学者ファブールは、ヨーロッパのタランチュラの猛毒をスズメとモグラで調べてかなり強力であることを確かめたことがあるが、今日では、人を驚かすほどの毒はもっていないことがわかっている。

タランテラ tarantella (伊) 軽快なリズムをもつイタリアの民族舞踊。名称は、イタリア南部の町タラントに由来するとともに、南部地方に多い毒グモ、タランチュラにかまれたときに、狂ったように踊り出すという古くからの伝承に由来するともいわれる。曲は、8分の3、または8分の6拍子で、1~2人の女性と男性1人が組んで踊るもので、14世紀以降、南部を中心にひろまった。そのリズムは、ショパン、リストなどにとり入れられ、独奏曲として昇華されている。

タラント → [写真項目]

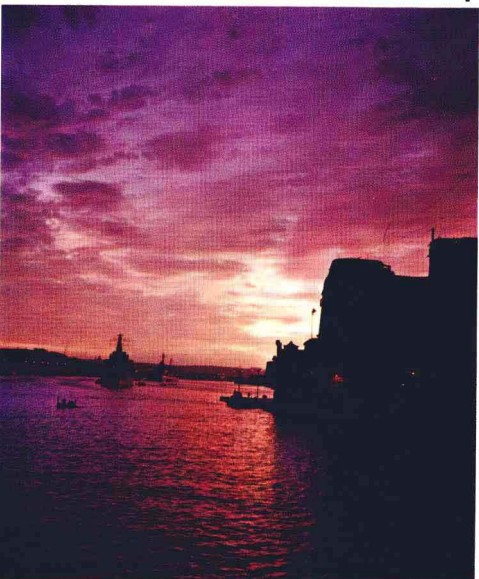
ダランペール Jean le Rond d'Alembert 1717~83 フランスの数学者。パリに私生児として生まれる。神学と法律を学び弁護士になったが、のちに数学と力学の研究にはいり、オイラー、ラグランジュとともに18世紀を代表する数学者となった。1743年、ニュートンの運動法則を剛体系の理論にまでひろげた〈ダランペールの原理〉をうちたてた。啓蒙主義哲学者としても知られ、51年からディドロらと「百科全書」の編纂や執筆に加わった。



1



3



2



4

タラント Taranto 南イタリア、プリア州タラント県の県都。人口22万8826(1971)。タラント湾の北隅に位置し、市街は湾上の小島と本土の部分に分かれる。島は、がんらい半島であったが、15世紀にナポリ王フェルディナンド1世の命によって水道が掘られたため、今日のような形状となった。旧市区は島に残され、石造と鉄製の2つの橋によって本土の新市区と結ばれている。新しい鉄製の橋は、1887年に建設され、1958年に再建された旋開橋で、大形船舶も航行できる(写真①)。市の西部

は港湾施設をもつ工業地区となっており、東部は幅の広い直線道路が走り、海岸ぞいにはゆったりとした並木道がある(写真②)。市は、前700年ころスパルタ人の避難民によって植民都市タラスとして建設され、のちマグナ=グラエキアで唯一のスパルタ植民地となって繁栄した。前3世紀前半ローマ人に征服され、つづいてビザンティン、東ゴート、サラセンなどの支配下におかれた。11世紀以降はノルマンの領土となり、のちにナポリ王国領となった。1861年のイタリア王国成立後は、イタリア

のアフリカ侵略の基地となり、重要な軍港、あるいは兵器工場のある町として知られた。近年になって大規模な製鉄工場が建設され、それとともに関連諸産業も発達して、いまや南部開発の拠点として変貌しつつある。いっぽう、カキやムラサキガイの養殖もさかんで(写真③)、陶器やガラスなどの伝統工芸もつづけられている。市の考古学博物館には、宝石細工や花びん、コインなど、ギリシア・ローマ時代の遺物がわずかながら保存されている。写真④は要塞の日没風景。

ターリー 大理 中国、雲南(ユンナン)省西部の大理白族(ターリーベーツ)自治州にある同名県の県都。人口5万。洱海(アルハイ)西岸の標高2086メートルの高地にある。唐代に南詔国、宋代に大理国の都城として栄えた。現在、ビルマ、チベット方面に自動車道路が通じており、交易がさかんである。付近で産する大理石は有名。水稻栽培もさかんである。洱海は月の名所として知られる。

タリ — |写真項目|

タリア Thalia ギリシア神話に登場する9人のムーサイの1人。タレイアともいう。喜劇をつかさどり、喜劇の仮面、つたの冠、羊飼いの杖をもつ。シチリアの美少年ダフニスの愛人ともいわれる。

タリア(属) *Dahlia* (学) 双子葉植物キク科の1属。原種はメキシコとグアテマラに分布し、15種ある。スペイン軍のメキシコ侵略にともなう、16世紀にヨーロッパに伝わり、19世紀以後きわめて多くの品種がつくられた。多年草で、地下に芋形の塊根ができ、茎は中空で節がある。花の大きさ、形、色は品種によってさまざまであるが、代表的な花型にはカクタス咲き、ボンボン咲き、コラレット咲き、デコラティブ咲き、アナモネ咲きなどがある。保存した塊根を移植するだけで栽培は比較的容易で家庭用園芸品種として愛されているが、極暑、低温を好まず、ウイルスに弱い。繁殖はふつう塊根の分球によるが、最近では、種まき用の品種もある。

タリアビーニ Ferruccio Tagliavini 1913～ イタリアのテノール歌手。レッジョ生まれ。バルマ音楽院に学び、フィレンツェ5月音楽祭で1等となった翌年の1939年、同地のテアトロ・コムナーレで「ボエーム」のロドルフォ役でデビューした。その後、イタリア各地の歌劇場で活躍しており、47年にはアメリカ合衆国のメトロポリタン歌劇場に出演して人気を博した。

タリアン Jean Lambert Tallien 1767～1820 フランスの政治家。フランス革命のさなか、1792年、バリのコンミュン書記となり、同年、国民公会に選出された。急進派に属したが、公安委員会委員として恐怖政治をおこない、94年には中道派のロベスピエールを告発、刑場に追いやった。その後保身をはかって保守化し、ジャコバン弾圧に加担した。95～99年の総裁政府時代には、五百人会の議員をつとめた。

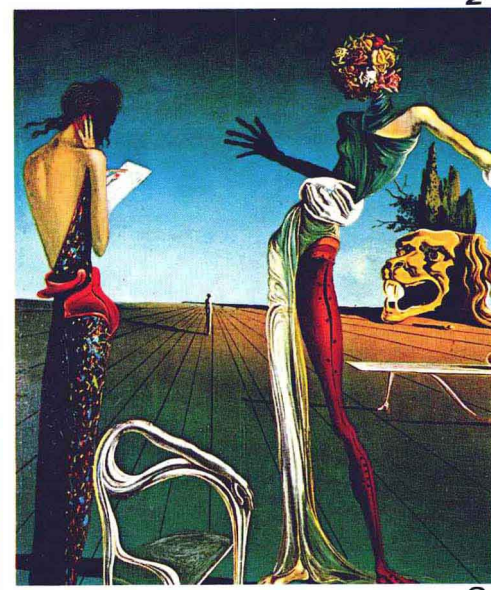
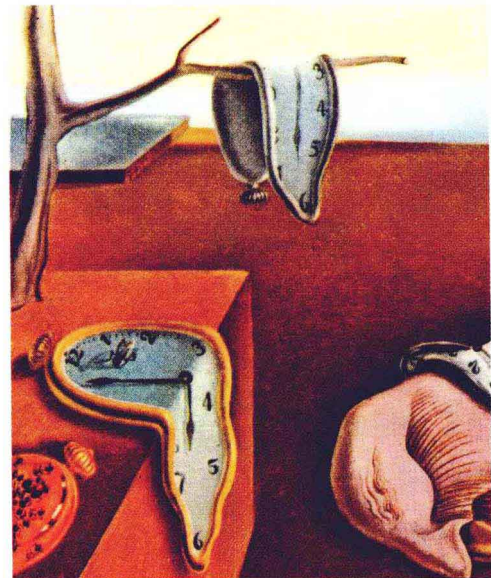
タリウム thallium (英) 記号Tl, 原子番号81, 原子量204.37, 周期表第Ⅲ族に属する金属元素。天然の存在量はわずかで、おもに硫化鉱物中に産出する。単体は、硫酸製造のときに発生する煙灰や、鉛室泥などから得られる。外観は鉛に似ており、白色の軟らかい金属である。融点302.5度、沸点1457度、比重11.85。湿った空气中に放置すると酸化され、厚い酸化物の被膜ができるので石油中に保存される。希酸にとけてタリウム塩をつくり、ハロゲンとは直接に反応する。タリウムの硫酸塩は毒性があり、殺鼠剤や殺虫剤に用いられる。また、各種の合

金属材料としても用いられている。

ダリエン Darien パナマ東部、同名湾とパナマ湾にはさまれた地域。面積1万6803平方キロ。人口2万4100。1510年に建設された町で、スペインの植民地、のちコロンビアの一部であった。同名湾はコロンブスが、1502～4年におこなった4度目の新大陸航海中に発見した。

ダリーオ Rubén Darío 1867～1916 ニカラグアの詩人。本名フェリクス＝ルベン＝ガルシア＝イ＝サルミエント。イエズス会の学校に学び、13歳で詩作をはじめた。首都マナグアの国立図書館につとめたのち、チリに移って文筆生活に専念。1888年、詩と散文を集めた「青」を発表、文名をスペインにまでとどろかせた。92年以降世界各地を訪れ、20世紀にはいつてからはパリを本拠としてヨーロッパ各地を旅行し、多数の文学者と交わった。詩風は、フランスの象徴主義の影響を受け、感覚的、暗示的であり、従来のスペイン語詩にはみられない音楽性に富んだ表現手法を創出している。20世紀のスペイン語詩は、ダリーオからはじまったといえる。代表作「不信の続唱」(96)、「いのちと希望の歌」(1905)、「さまよう歌」(07)、「アルゼンチンへ捧げる詩その他」(10)、「秋の詩その他」(10)。

タリーシゾク — 族 カスピ海沿岸のソビエト連邦とイランとの国境地帯に居住するインド＝ヨーロッパ語系の民族。カフカス原住民の一種族で、言語上アルメニ



ダリ Salvador Dalí 1904～ スペインの画家。カタルニアに生まれ、マドリードの美術学校に学んだ。一時期印象派の影響を受けたが、その後キュビズムにひかれ、さらにキリコの形而上絵画に傾倒した。1928年、パリへ移り、シュルレアリストと交わって作風は一変する。フロイトの精神分析に触発された芸術観から、〈パラノイック＝クリティック〉と称する、心象風景と精密な写実主義を結合させた独特の画風を確立し、以降シュルレアリスムの旗手として世界的注目を集めるようになっ

た。またブニエルと共同で映画史上に残る問題作「アンダルの犬」(28)、「黄金時代」(30)を制作するなど、多方面にわたって活躍した。絵画ではこの時期「記憶の残滓」(31 写真②)、「雨あがりの古代の廃墟」(34 写真①)などがあり、とくに前者はその時間融解の鮮烈なイメージによって現代芸術の傑作として知られる。このように事物から日常的意味を剥奪して新しい意味をもたらす方法は多方面に深い影響を与えた。さらに36年の「内乱の予感」はスペイン市民戦争を予言し、芸術が現実を

凌駕したものとして重要な意味をもつ。こののち古典主義への傾斜を経て、アメリカ合衆国へ渡り、バレー、広告とあらゆるジャンルで旺盛な創作活動をおこなった。第2次世界大戦後ヨーロッパへもどり、カトリシズムの立場から神秘主義的作品を多く描き、その後また作風の転換をみせて今日にいたっている。あまりにも広範な活動からコマーシャルイズムを非難する声もあるが、現代最高の芸術家のひとりとしてきわめて高い評価をうけている。写真③は「バラの頭の婦人」(54)。

ア人、クルド族、オセチア族などと同じ系統に属する。宗教はイスラム教。一部は遊牧生活をいとなんでいる。

タリス Thomas Tallis 1505?~85 イギリスの作曲家、オルガン奏者。ヘンリー8世からエリザベス1世の代まで王室礼拝堂付の侍従として仕え、のち、バードとともにそのオルガン奏者をつとめた。1575年には、エリザベス1世からバードとともに楽譜の印刷、出版の独占権を得て、自作のモテットなどを出版。対位法にすぐれ、イギリス国教会音楽の確立に寄与した。

タリスマン → |写真項目|

タリムがわ 塔里木河 中国西部、新疆(シンチヤン)ウイグル自治区の中部を流れる川。全長2190キロ。バミール高原に発する喀什噶爾河(カシガル川)、崑崙(クンルン)山脈に発する和田河(ホータン川)、天山(テンジャン)山脈に発する阿克蘇河(アコス川)、カラコラム山脈東麓に発する葉爾美河(ヤルカンド川)を合流して同名盆地北縁を東流し、羅布泊(ロブノル)湖にそそぐ。内陸アジア有数の河川で、複雑な流路を形成し、流域面積は100万平方キロにおよぶ。中国解放後、大西海子(ターシーハイツ)など、いくつかのダムを建設し、流域への灌漑を進めている。

タリャコッツィ Gasparo Tagliacozzi 1546~99 イタリアの外科医。ボローニャ大学の医学教授をつとめる。

耳、鼻など顔面の欠損部へ、身体の他の部分を移植、整顔する手術法を考案した。

ダリュ Pierre Antoine Noël Mathieu Bruno Daru 1767~1829 フランスの軍人、政治家、歴史家。ながらく軍務にあり、1799年のブリュメール18日のクーデタ後、ナポレオン1世の信任を得、法制委員、帝室顧問官、プロイセン駐留のフランス軍総監、国務卿などを歴任した。王政復古により、1815年には流刑に処せられたが、19年、貴族院入りを認められた。晩年「ベネツィア共和国史」7巻(19)、「ブルターニュ史」3巻(26)を著わし、歴史家としても知られている。

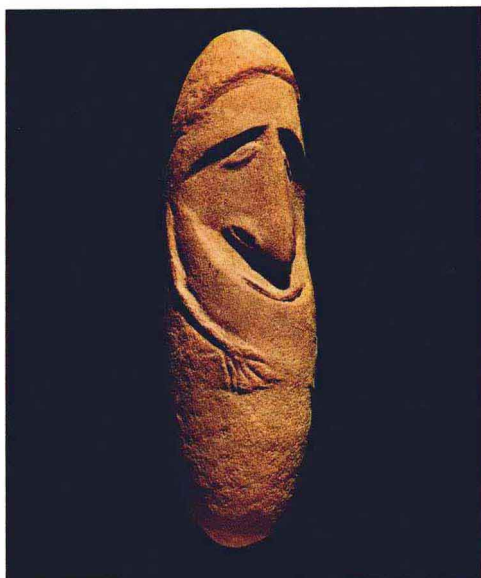
ダリュウ Danièle Darieux 1917~ フランスの映画女優。ボルドー生まれ。幼時から天成の美貌をうたわれ、パリ音楽院在学中に映画にデビュー。「禁男の家」(1936)、「うたかたの恋」(36)などで、フランス映画最高の美女として世界的人気を集めた。以後「ルイ=ブラス」(47)、「輪舞」(51)、「愛すべき貴婦人たち」(52)、「たそがれの女心」(53)などに出演、年とともに円熟した美しさをみせて、長い女優生命を保ちつづけている。

タリョーニ Maria Taglioni 1804~84 イタリアのバレリーナ。ストックホルム生まれ。父フィリップは著名な舞踊家、振付師。1822年にウィーンでデビュー、27年にパリのオペラ座に進出し、32年に「ラ=シルフィード」の主役を踊って世界的名声を得た。これは、今日用

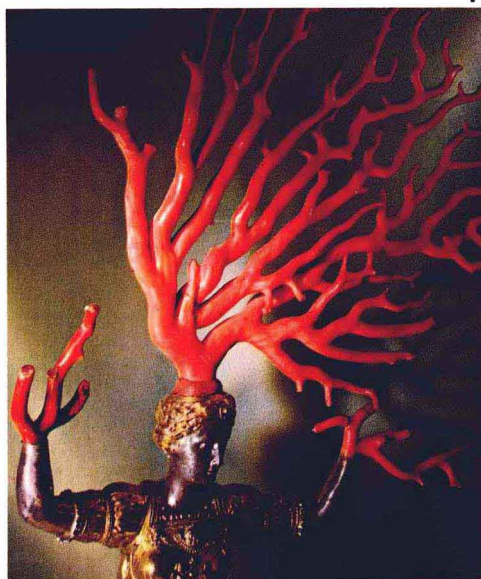
いられるチュチュ(釣鐘形の白紗の衣装)をつけてボワント(つまさき)で踊る最初のバレエであり、ロマンティック=バレエ時代の幕開きをつけるものとなった。同32年にギルベール=ド=ボアサン伯と結婚、47年に引退。息子ポール、その娘マリアも舞踊家として大成した。

タリン Tallin ソビエト連邦西部、バルト海に面するエストニア共和国の首都。人口37万8000(1972)。フィンランド湾にのぞむ海港。10世紀ころ建設され、13世紀ころにはハンザ同盟都市となって栄えた。1940年に同国がソ連邦に併合されたとき首都となった。レニングラードとリガを結ぶ鉄道、道路交通の要地であり、また、金属加工、機械製造、造船、電気器具製造、製紙、木材加工、食品加工などの工業がおこなわれ、同国の工業の中心地でもある。市内には総合大学、高等教育および研究機関、博物館のほか、中世の城壁や教会、市庁など多くの歴史的建築物がある。

ダリングアンドブルワー William Henry Lytton Earle Bulwer, Baron Dalling and Bulwer 1801~72 イギリスの外交官。プロイセンをはじめ、オランダ、ベルギー、トルコ、フランス、スペイン、アメリカ合衆国などの駐在大使をつとめる。この間、1838年、トルコと、貿易上イギリスに有利なボンソンビー条約を結んだのをはじめ、50年には合衆国とクレートン=ブルワー条約を結んでパナマ運河の中立を確保するなど、各地で外交手腕を発揮、その功により71年、男爵となった。



1



2



3

タリスマン talisman (英) 呪的、神秘的な力をもつと信じられている模様や呪文が彫りこまれている護符、魔よけなどの総称。お守り、呪符などともいう。アラビア語で「魔力をもつ形」を意味するテルサムと、ギリシア語で「事の成就」を意味するテレスマに由来し、ビザンティン時代にヨーロッパで一般化した呼称である。護符や魔よけなどの崇拝、携行は、原始宗教に共通におこなわれていた呪物崇拝(フェティシズム)の名残として世界各地にみられる。護符と呪符との明確な区別はつけ

がたいが、狭義のタリスマンは幸運を呼ぶマスコットなどの護符をさし、アミュレットは厄災を避ける魔よけなどの呪符の意味をもつ場合が多い。タリスマン、アミュレットの起源をブレアニズム期に求める宗教民俗学者もあるが、古代メソポタミア諸族のあいだでは、きわめて重要な生活用具としてひろく用いられたとされる。ヨーロッパでは、キリスト教の偶像崇拝禁止令によってタリスマン携行を禁じられていたが、旅行用の護符などに慣習として普及し、中世初期にしだいに混合していっ

た。形式のうえではキリスト教の信心具や守護聖人が制定され、図像様式のうえでは、教会堂建築の外装、軒蛇腹や雨樋などに魔よけとして用いられるようになる。現在では、十字架や聖人像をきざんだメダイ(章牌)などが公認されている。タリスマンは、人間の毛髪、動物の骨や皮、つめ、金石類、聖句を書いた紙や札などからなり、ひそかに携行する性質のものである。写真①メラネシアの石刻像。②17世紀ドイツの工匠作の置物で、食卓上の毒よけ、魔よけの護符。③18世紀の金石細工<幸運の手>。

ダーリングがわ —川 Darling R. オーストラリア南東部を流れるマレー川最大の支流。全長約2740キロ。ニュー＝サウスウェールズ州とクイーンズランド州の分水嶺に発し、南西流してウェントワースでマレー川に合流する。1828年、チャールズ＝スタートが発見し、当時の州知事の名をとって命名した。中流以下は広大なマレー＝ダーリング盆地を通り、その流域には農牧用灌漑が進み、コムギの栽培やヒツジの飼育がさかんで、ウェントワースをはじめ農牧業の中心地が発達している。

ダーリントン Darlington イギリス、イングランド北東部のダーラム県南部にある工業都市。人口8万5900(1971)。ティーズ川支流のスカーン川にそう。産業革命以前は商業の町であったが、19世紀になって鉄道がしかれてから、付近の石炭産地や鉄鋼業地帯を背景に鉄道車両や器材、造船用鋳物などの製造業中心の町に発展した。1825年、世界最初の旅客列車が同市とストックトンとのあいだを走ったことも知られており、その第1号機関車が保存、陳列されている。

ダール Johan Christian Clausen Dahl 1788～1857 ノルウェーの画家。コペンハーゲンの美術学校を卒業後、1818年からドレスデンに住み、24年に同地の美術学校教授となる。繊細な筆致でノルウェー特有の田園や湖などの風景を描いた。

ダール Roald Dahl 1916～ イギリスの小説家。第

2次世界大戦後、大使館付武官としてワシントンに赴任、『ニュー Yorker』『ブレイボーイ』などに都会的で洗練されたスタイルの短編を発表して人気を得、職を辞して作家となった。寡作ではあるが、ひきしまった透明でシニカルな作品は、一部で高く評価され、その後イギリスにもどって童話なども手がけている。

タルアトパシャ Mehmet Tal'at Pasha 1872～1921 トルコの政治家。アドリアノーブル州カルジャリーの生まれ。サロニカの郵便局長であったが、1903年、統一進歩委員会(青年トルコ党)の結成に参加。8年の革命ののち内相、通信相を歴任、第1次世界大戦ではドイツ側に立ってトルコの参戦を画策した。17～18年には首相をつとめたが、敗戦の責任をとってコンスタンティノーブルを離れ、ベルリンに亡命し、同地でアルメニア人民族主義者によって暗殺された。

ダルエスサラーム Dar es Salaam 中部アフリカ、タンザニアの首都。人口51万7000(1975)。同国東部、インド洋沿岸にある港湾都市で、ザンジバルの南方約75キロに位置する。1862年ごろにザンジバル帝国のスルタンが建設した町で、84年にドイツが占領して港と市街を建設し、91年にドイツ領東アフリカの政庁をおいた。第1次世界大戦後、イギリスのタンガニーカ委任統治領の首都となって発展した。1961年にタンガニーカが独立するとともに同国の首都となり、以来、南部アフリカの白人支配下にある植民地独立運動の活動拠点となっている。現在、

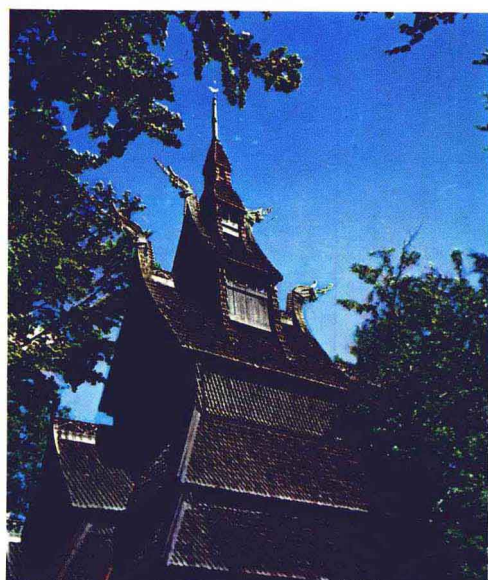
鉄道がタンガニーカ湖畔のキゴマやビクトリア湖畔のムワンザに通じ、70年、着工したタンザン鉄道はザンビアの首都ルサカに通じる。国際空港もあり、港湾、道路交通も整備されて、東アフリカの政治、経済、文化の一中心となっている。市内には東アフリカ大学、博物館、植物園など教育および文化施設がある。

たるきょうかい — |写真項目|

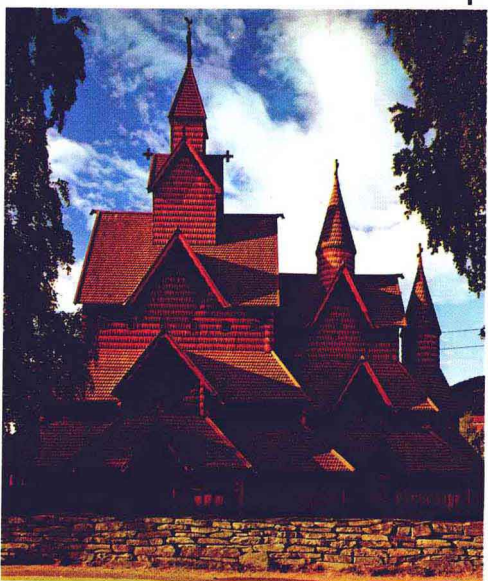
タルクィニア — |写真項目| 次ページ。

タルクィニウススぺルプス Lucius Tarquinius Superbus 伝説上の古代ローマ最後の王。伝承上の在位は前534～前510年。エトルリア出身のタルクィニウス王家の7代目とされる。横暴、傲慢な性格の持主で、彼の王子が強姦事件をおこしたのを契機にローマから放逐され、ローマは王制から共和制に移行したといわれる。

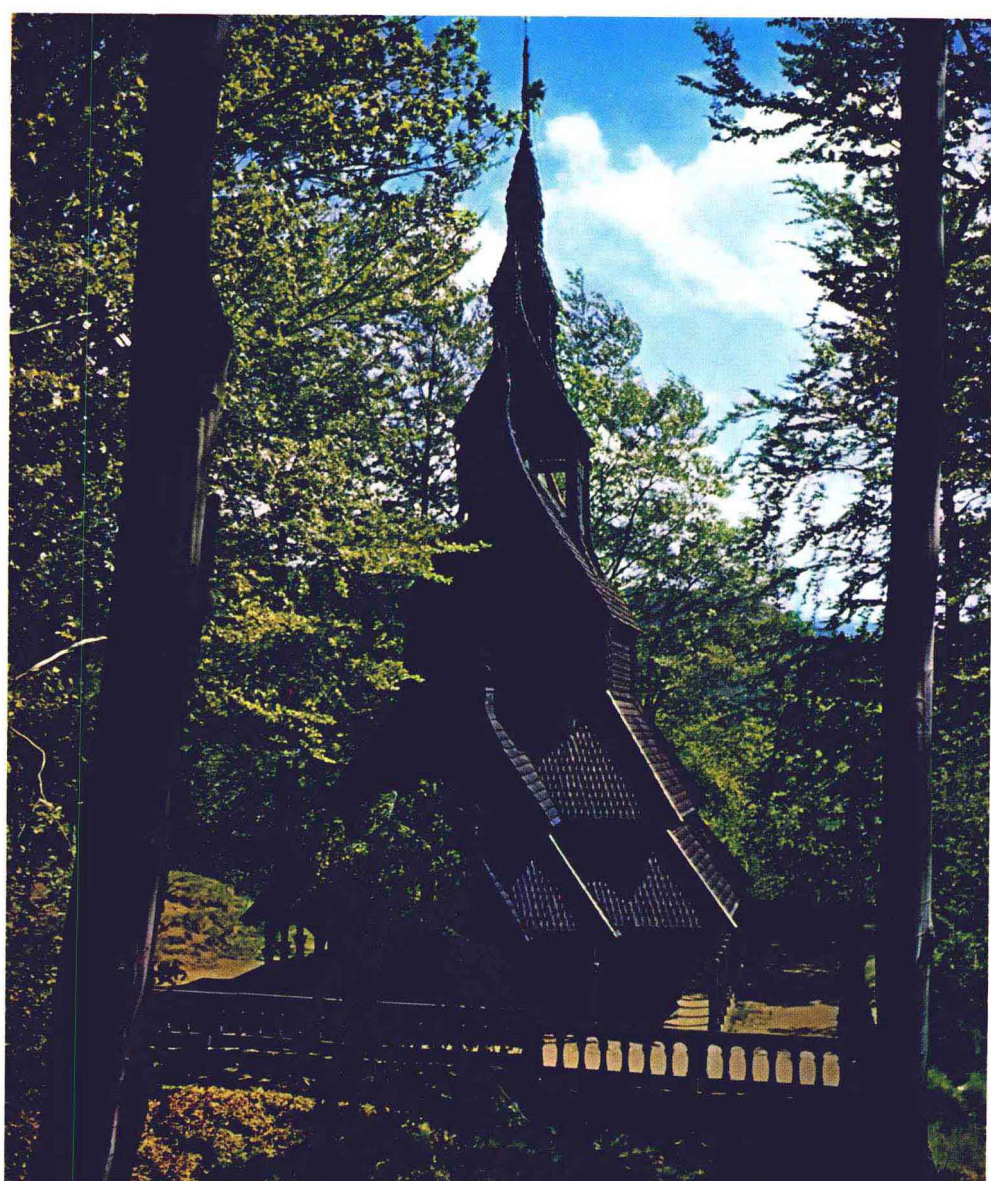
タルクィニウスプリスクス Lucius Tarquinius Priscus 伝説上の古代ローマ第5代の王。伝承上の在位は前616～前579年。コリントス人デマラトスとエトルリアの女とのあいだに生まれ、妻タナキルのすすめでローマに移住して、ルキウス＝タルクィニウスと改名、エトルリアの習慣、技術などをローマに伝え、その知勇により衆望を集めて、王位についたといわれる。古代ローマ最後の王タルクィニウス＝スぺルプスは、彼の子とされるが、同一人物とする説もある。



1



2



3

たるきょうかい 梅教会 中世のスカンディナヴィア地方に発達した木造のキリスト教会建築の形式。とくにノルウェーのソグネ地方を中心に独特の発展をみせた木造多層構造をもつプランで、25の教会が現存する。ノルウェー語の Stavkirke とは、木の柱(支柱)の教会の意味で、ドイツ語でシュターブ形式、または柱架構造という。キリスト教がノルウェーに伝えられたのは9世紀末から10世紀で、教会堂はバイキング時代からの伝統的技術による木造平屋の長方形プランでつくられたが、11世紀中、

葉に東ヨーロッパからロマネスク様式の木造技術が導入され、垂直性をもった多層塔構造が生まれた。写真②は11世紀末に建てられたトロンヘイム大聖堂で、土台、細部はその後改修されたものである。土台は初期のものにはみられず、長方形会堂は、四本の柱に支えられ、さらに梁に連結して他の支柱を固定する形でみごとにバランスを保っている。長方形の東側短辺に正方形の内陣とアプスがあり、壁面には採光のための小窓が設けられている。12世紀以後はゴシック様式の影響が濃くなり、

会堂前廊、翼廊、舟形穹窿、三廊式身廊と内陣回廊などが採用されるようになる(写真①③ベルゲン郊外の森林公園に移された12世紀ファントフトの礼拝堂)。外観は、切妻式屋根のかさなりあいによる垂直性が強調され、竜頭様の鶏尾(しび)と尖頭をもつ木屋根によって美しく調和している。ホルグルント、ゴルヘダル、ホブレクスタド、フォルテンなどの聖堂には、バイキングの組紐文様や図絵をもつ貴重な装飾柱や厚板が、前廊上部、内陣部などに使われている。

ダルクローズ Emile Jaques-Dalcroze 1865～1950
スイスの作曲家、音楽教育家。ウィーンに生まれ、ジュネーブ音楽院でフックスに作曲を学び、のちに同校の教授となった。1905年、音と運動感覚の結合によってリズム感を養う〈ダルクローズ＝ユースミックス〉を提唱し、10年にドイツのドレスデン郊外に研究所を建て、以後、各地に同様の研究所を建設してその普及につとめた。作曲家としては、協奏曲、民謡作品などがある。

タルコア Pierre Louis Corentin Jacob Tal-Coat 1905～ フランスの画家。ブルターニュ地方の漁村に生まれ、独学で印象派などの絵画を学ぶ。製陶工場の絵付工を経て、1924年、パリに出た。第2次世界大戦中はプロバンスに移っていたが、45年、パリにもどって〈サロン＝ド＝メー〉の主要画家として温和な洗練された抽象画を制作している。代表作「ドルドーニュの思い出」(55)。

タルコフスキー Andrei Arsenievich Tarkovskii 1932～ ソビエト連邦の映画監督。国立映画大学でロムンに学び、1960年、卒業制作の「ローラとバイオリン」は、ニューヨークなど海外でも上映されて注目を集めた。62年、戦争の悲惨な映像美のなかに描いた長編第1作「僕の村は戦場だった」で、ベネツィア映画祭金獅子賞を獲得、一躍新しいソビエト映画の新しい手と認められるようになった。ほかに「アンドレイ＝ルブリョフ」(67)、「惑星ソラリス」(72)、「鏡」(75)など。

タルサ Tulsa アメリカ合衆国、オクラホマ州北東部にある都市。人口32万8200(1970)。中部油田地帯の中央で、アーカンソー川沿岸にある。1901年、油田が発見されてから飛躍的に発展し、世界の石油都市にのしあがった。石油精製工業が発達しているほか、石油採掘用機械、ガラス、化学、自動車、繊維など各種の工業がさかんである。また、周辺の綿花、小麦、畜産物の集散地でもある。市内にはタルサ大学、アメリカ石油地質学会本部などがある。

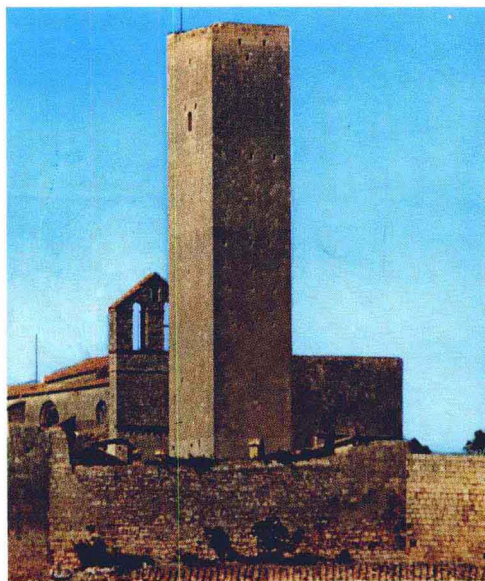
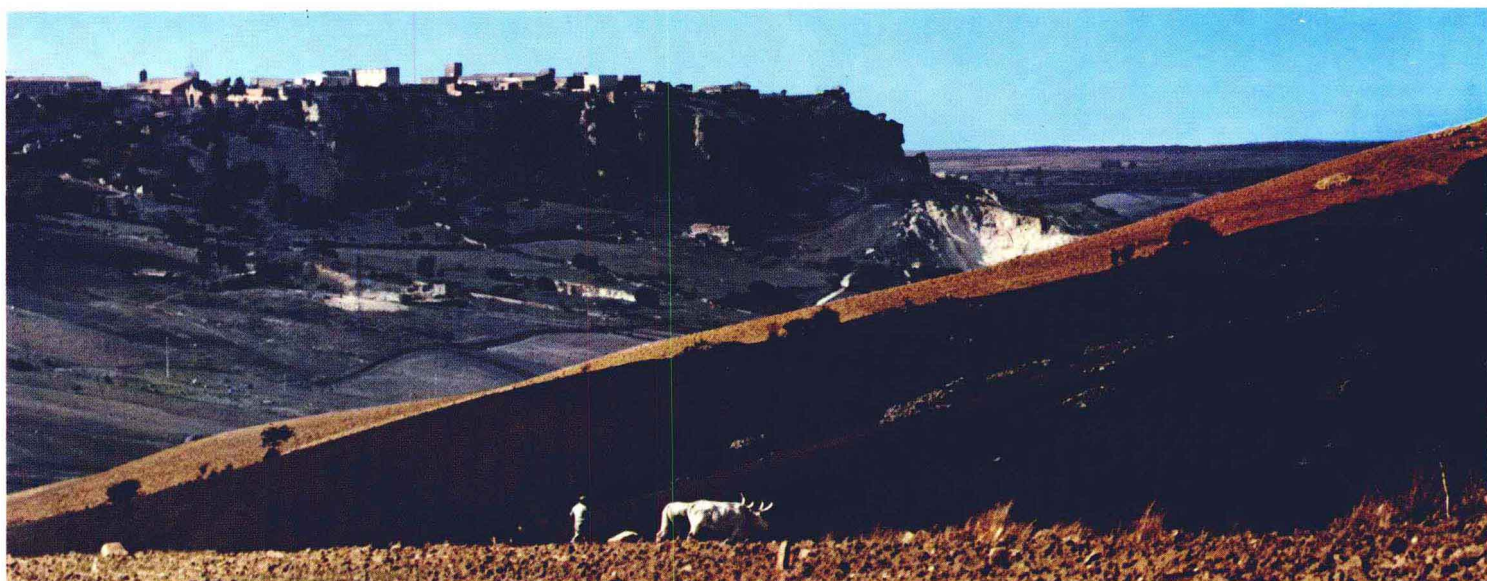
タルスキ Alfred Tarski 1902～ ポーランド生まれのアメリカ合衆国の論理学者、数学者、哲学者。ワルシャワ大学でルカーシエウィチらに学び、その指導するポーランド学派で重きをなした。1945年、合衆国に帰化し、翌年、カリフォルニア大学教授となった。論理学の分野では、35年の論文〈形式言語における真理概念〉によって近代論理学における意味論の定式化に先鞭をつけたほか、多値論理学、決定問題など多くの研究をおこなっている。また、数学においても、測度論をはじめ業績は多い。主著に第2次世界大戦前の業績をまとめた「論理学、意味論、代数論」(56)など。

タルスス Tarsus トルコ南部、キリキア沖積平野にある都市。人口7万2000(1970)。地中海北東沿岸に近く、キドヌス川河口付近にある。古代小アジアのキリキアの主要都市として栄えた。アナトリアからシリアにいたる交通の要地で、早くからギリシア人が植民したが、前66

年、ローマに占領されたのち自治都市となった。古代ローマの政治家アントニウスとエジプトの女王クレオパトラがたびたび会った地としても知られ、また使徒パウロの生誕地でもある。のちビザンティン帝国の支配下にはいったが、8世紀にアラブ人が侵入した。15世紀以後はオスマン＝トルコ領となった。周辺は肥沃な農業地帯で、ムギ類、ゴマ、ワタなどを栽培する。また鉱産地帯では銅、クロム、石炭などを採掘しており、同市は両地域の経済の中心となっている。

タルターリア Niccolò Tartaglia 1499?～1557 イタリアの数学者。本名はニコラ＝フォンターナで、ブレシアの貧家に生まれ、舌の刀傷でどもり(タルターリア)になってからは、それを通称とした。独力で古典語、数学などを学び、3次方程式の解法を発見して、カルタノに伝えたといわれる。著書には、エウクレイデスの「原本」の最初のイタリア語訳、有名なタルターリアの三角形の作図法がはいっている「数と計測についての一般理論」3巻(1556～60)など。

タルタロス Tartaros ギリシア神話で冥府の底。ここと大地との距離は、天から大地までと等しいという。オリュンポス神族と戦って敗れたティタン神族、もともと狡猾な人間といわれるシシュフォス、神々に人肉を食べさせようとしたタンタロス、最初の親殺しとなったイクシオンなどが、ゼウスによりここに落とされて責苦をうけた。のちに、冥府そのものと同視されるようになった。



タルクィニア Tarquinia イタリア中央部、ラツィオ州北西部の都市(写真①)。人口1万2400(1970)。ローマ北西約70キロ、ティレニア海岸から7キロの丘の上に位置し、古い遺跡のあることで知られる。住民は、おもに穀物、ブドウ、オリーブなどの農作物栽培、牧畜、製塩、観光業に従事している。1872年まではコルネト、その後、1922年まではコルネト＝タルクィニアと呼ばれていた。タルクィニアという呼称は、エトルリアの古い都市の名タルクナに由来する。伝説によれば、タルクィニア

市はエトルリア王タルコンテによって建設されたといわれるが、いずれにしてもこの地にはじめて人間が定住するようになったのは鉄器時代のことと推定される。前1000年までにはエトルリア人による都市建設がおこなわれ、前8～前6世紀にはエトルリア十二都市同盟の政治、文化の中心地として繁栄した。しかし前4世紀末にローマによって征服され、その後、マラリアの流行やランゴバルドの侵攻で衰退した。14世紀にアルボルノス枢機卿に征服されてからのちは、教皇領の一部となった。その

後、中世の遺跡群(写真②)の周辺に新しい町が建設され、宮殿やサン＝マルティーノ、サン＝フランチェスコなどの教会も建造された。エトルリア人が栄えた時代の遺跡には、レオネス家、レオバルド家などの名家の墳墓(写真③)のほか、彫像(写真④)などがあり、とくに古墳に描かれた壁画は当時のエトルリア人の風俗をいっきと伝えている。ローマ支配期の遺跡は前4～前3世紀の石づくりの壁はじめ、公衆浴場などが残っている。なお主要な遺物は同地のビテレスキ博物館に収蔵されている。

タルティーニ Giuseppe Tartini 1692～1770 イタリアの作曲家、バイオリニスト。ピラノに生まれ、早くから音楽教育を受けた。パドバ大学では法律を学んだが、1713年に枢機卿によってパドバを追われ、アシジに逃れて音楽に専心した。21年、パドバのサン＝アントニオ教会のオーケストラ首席バイオリニストにむかえられ、28年には学校を創立し、ナルディーニらの弟子を育成した。運弓法の改良に貢献。代表作はソナタ「悪魔のトリル」。

タルデュ André Tardieu 1876～1945 フランスの政治家。外務省につとめるかわら、外交評論家としても活躍した。1914年、下院議員となり、17～29年には数回にわたって閣僚を歴任したのち、29年に首相に就任し、反共をかかげ、ドイツ、ソビエト連邦に対して強硬外交策をとった。34年、ドゥーメルグ内閣の無任所相となり、ファシヨ政策を実現しようとして失敗した。

タルデュ Jean Tardieu 1903～ フランスの劇作家、詩人。叙情詩人として出発したが、第2次世界大戦後は軽妙な戯曲、ラジオ＝ドラマの台本など演劇にも進出している。代表作に、詩集「見えない証人」(1943)、「誰もいない声」(54)、戯曲「室内劇」(55～60)など。

タルバート Eugène Francis Charles d'Albert 1864～1932 イギリス生まれのドイツの作曲家、ピアニスト。フランス人作曲家を父として生まれ、1881年、メンデルスゾーン賞を得てウィーンでリヒターに、ついでワイマ

ールでリストに学んだ。ヨーロッパ各地、アメリカ合衆国に演奏旅行し、1907年にはベルリン高等音楽学校の校長に就任。作品は、歌劇「低い土地」(03)のほか交響曲、ピアノ協奏曲など。

ダルブー Jean Gaston Darboux 1842～1917 フランスの数学者。解析的推理の基礎のもとに、すぐれた幾何学的直観を生かして研究を進め、微分幾何学を創始した。「一般曲面論議義」4巻(1887～96)は、この分野での貴重な古典とされている。

タルベルク Sigismund Thalberg 1812～71 オーストリアのピアニスト。貴族の庶子に生まれる。ウィーンでフンメルにピアノを学び、のちにはカルクブレナーに師事した。リストに比肩するピアニストとして、ヨーロッパやアメリカ大陸で賞賛を得た。

タルボット William Henry Fox Talbot 1800～77 イギリスの科学者、写真発明家、考古学者。1841年、1枚の陰画から多数の陽画を得るカロタイプ(タルボタイプ)法を発明し、近代写真技術の基礎を築いた。著書「自然の鉛筆」(44)は、その発明の経過を記述したものであり、写真入りのはじめての書物として有名。考古学者としても知られ、二ネベで発掘されたくさび形文字を、他の学者とともに解読した。

タルマ François Joseph Talma 1763～1826 フラ

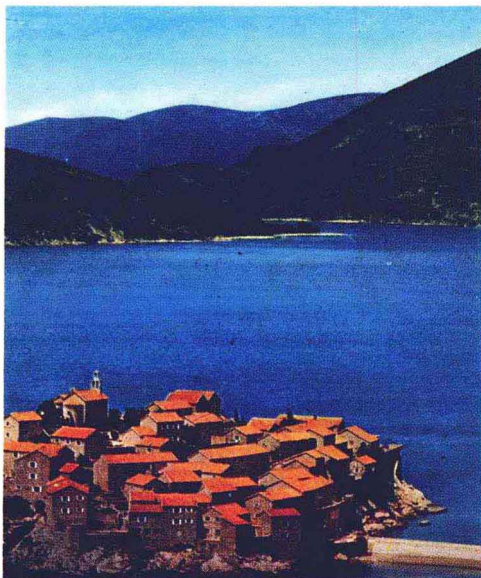
ンスの俳優。歯科医修業中に演劇を志し、王立朗誦学院で学んだあと、1787年にコメディ＝フランセーズにデビュー、89年の革命ではダントン側に加担し、共和国劇場を組織した。99年、ナポレオン1世の庇護を受けてコメディ＝フランセーズに復帰、友人の画家ダビッドの助力のもとに史実を尊重した舞台美術を採用し、誇張を排した写実的演技を開拓、劇壇に新風をもたらした。最高の当たり役はシェークスピアの「ヘンリー8世」の主演。

だるま ⇨ ぼだいだるま

ダルマ dharma (サンスクリット) 仏教の中心概念のひとつで、永遠不変の本性(任持自性)、真の教え、真理、人の守るべき永遠の理法をいう。がんらいく保つもの「くまり」の意で、パーダではリタ＝プラタ(天法)に対して人間社会の掟、秩序、法律をさした。婆羅門教、六派哲学、ジャイナ教などにより種々の解釈がある。

ダルマキールティ Dharmakīrti 生没年不詳 7世紀ごろのインドの仏教哲学者。漢訳名は法称。インドで仏教が衰退する直前に、新因明と呼ばれる仏教論理学の祖ディグナーガ(陳那)の説を継承し、宗・因・喻による論証式を確立するなど、認識論的論理学を大成した。著書「ニヤーヤビンドウ(正理一滴)」「サンターナーンタラシッディ(他相続成就)」など。

ダルマティア → |写真項目|



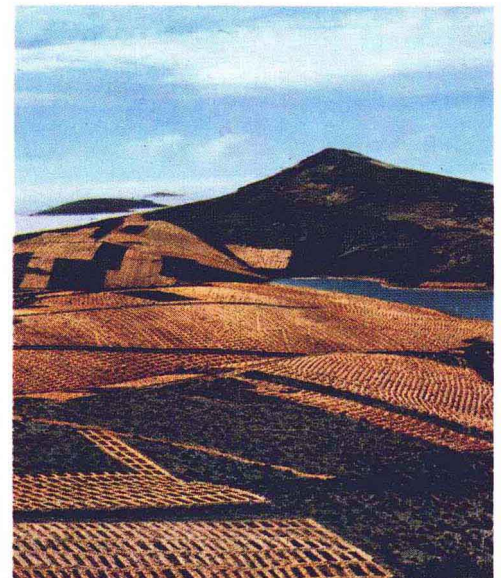
1



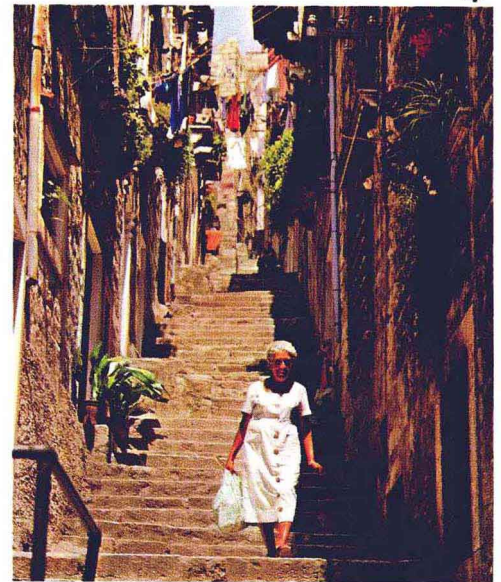
2



3



4



5

ダルマティア Dalmatia ユーゴスラビアのアドリア海に面する海岸地帯。クパルネル湾からアルバニア国境近くのツェチニエ河口まで、長さ約400キロにわたる細長い地域で、クルク島、ロシニ島、コルチュラ島など海岸線に平行する600あまりの島をふくむ。これらの島々は、内陸部を北西から南東に走るディナル＝アルプス山脈の支脈がアドリア海に沈降した結果つくられたものである。気候は、典型的な地中海性であるが、冬にはボラと呼ばれる寒風が、ときどき背後の山地から吹きおろす。低

地では年間500～800ミリ程度の降水量しかない。ダルマティアの歴史は、ダルマティア人がこの地に定住した前2世紀までさかのぼり、以降第1次世界大戦後にユーゴスラビアに編入されるまで、ローマ、ビザンティン、クロアチア、ベネツィア、トルコ、オーストリア、ナポレオン治下のフランスなどによる被支配の道をたどった。とくに、中世から近世にかけて支配したベネツィアの影響は強く、今日でも文化の諸相においてその形跡を見いだすことができる。乾燥に強いオリーブやオレンジ

などのかんきつ類の栽培がさかんで(写真④海岸ぞいの果樹園)、そのほか、ワイン醸造、漁業、造船、セメント用石灰やボーキサイトなどの鉱業、観光業がおこなわれている。ダルマティアの名は近年、世界的な観光・保養地としてひろく知られ、毎年、数百万の観光客が温かな気候、美しい風景、多くの歴史的遺跡を求めてこの地を訪れる。写真①は古い漁師の小屋を改造したホテルの多い聖ステファン島。③マカルスカ島海岸。②はドゥブロブニク市民のフォークダンス。⑤ドゥブロブニクの家並み。

ダルマティカ *dalmatica* (ラテン) 古代ローマ末期から中世にかけて用いられた衣服の一種。直線裁ち、T字形のゆったりしたもので、男女ともに着用した。ローマにはダルマティア地方から移入されたが、がんらいはシリア地方で生まれた様式といわれる。今日では、カトリック教会やイギリス国教会などの助祭の祭服、あるいはユーゴスラビア、アルバニアなどの民族服にその名残をとどめている。

タルマン *William Talman* 1650～1720 イギリスの建築家。イギリス＝バロック様式の代表的な建築家のひとりとして、1681年、デボンシャー公のチャッツワース邸の東面と南面を改築。ほかに、ノッティンガム・ソースビー邸を建築し、クリストファー・レンのハンプトン＝コート宮殿増改築の工事監督もつとめた。

ダルムシュタット *Darmstadt* ドイツ連邦共和国(西ドイツ)西部、ヘッセン州南部にある州都。人口14万1200(1971)。フランクフルト＝アム＝マインの南32キロ、ライン地溝帯北部とオーデンワルト山地のあいだにある。18世紀末のヘッセン＝ダルムシュタット大公の根拠地。現在、ヘッセン州南部の経済の中心地で、機械、化学、金属加工、印刷、ガラス、電機などの工業がさかんである。工科大学、工業デザイン研究所、プロテスタント教会本部などがあり、ほかに教育、文化施設も多い。

タルムード *Talmud* ユダヤ教でラビ(律法学者)の口

伝、解説を集めた書。名称は、ヘブライ語で「教訓」<教義>を意味しており、ユダヤ教徒にとって「聖書」につぐ聖典である。モーゼの律法(トーラー)に関するラビの口伝、解説の集大成であるが、ヘブライ語で書かれた本文にあたる「ミシュナ」と、その補足、注解などを集めたアラム語による「ゲマラ」とに分かれている。現存するのは、4世紀末の「バレスティナ＝タルムード」と6世紀には編まれていた「バビロニア＝タルムード」の2書であり、両者ともミシュナは同じであるが、ゲマラについては後者のほうが広義の内容をもち、ふつう、タルムードといえは後者をさして、今日にいたるまでユダヤ教徒の精神文化の源泉とされている。なお、タルムードには、ユダヤ人の法、宗教生活、社会慣習、伝説のほか、医学などの記述もあり、資料としての価値も高い。

ダルモンテ *Toti Dal-Monte* 1899～ イタリアのソプラノ歌手。ベネツィア生まれ。はじめピアノを学んだが、手の負傷から声楽に転じてマルキジオに師事した。1916年、スカラ座で「リゴレット」のジルダ役でデビュー、24年にはメトロポリタン歌劇場で「ルチア」の女主人公としてアメリカ合衆国の舞台を踏んだ。清澄で繊細、軽やかなソプラノはイタリア最高と称された。

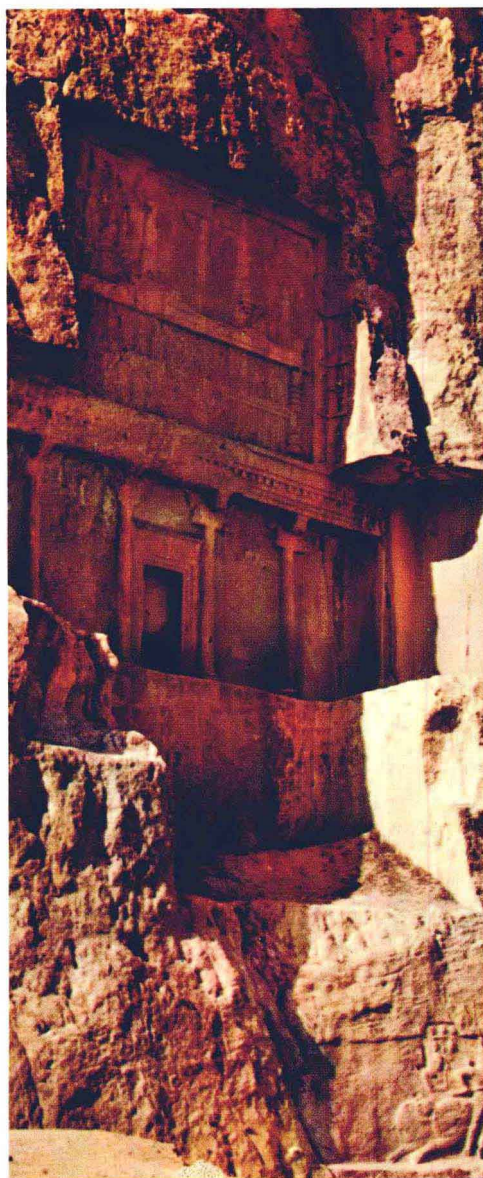
ダレイオス一世 → [写真項目]

ダレイオス三世 *Dareios III* ?～330 B.C. アケメネス朝ペルシアの王(在位336? B.C.～330

B.C.)。アルメニア総督から王位にむかえられ、エジプトの反乱を鎮圧したのち、前333年にイッソス、ついで前331年ガウガメラでアレクサンドロス大王のひきいるギリシア軍に完敗を喫した。再挙をはかってバクトリアに逃走したが、その地の総督に暗殺され、アケメネス朝ペルシア帝国は滅亡した。

ダレイオスにせい — 2世 *Dareios II* ?～405 B.C. アケメネス朝ペルシアの王(在位424? B.C.～405B.C.)。アルタクセルクセス1世の庶子。ペロポネソス戦争中に即位し、邪険な性格の叔母バリュサティスと結婚した。治世中、宮廷内では政争が絶えず、帝国内では反乱が続発し、前410年にエジプトの独立を招いた。しかし、対ギリシア政策で、王子キュロスや諸將の活躍により、スパルタとアテナイ間の対立抗争を激化させ、外交上、有利な立場に立った。

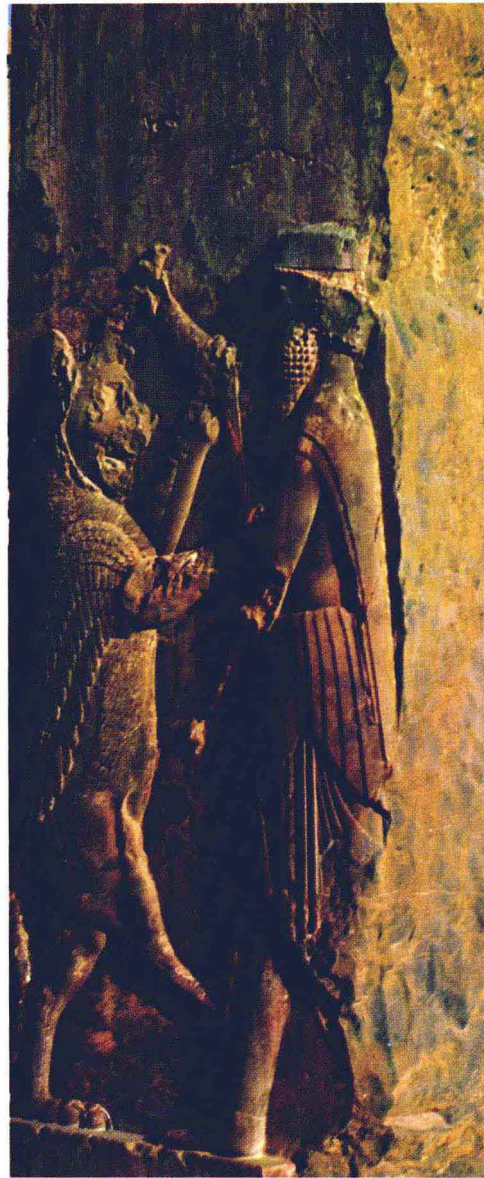
タレス *Thales* 624 B.C.～547 B.C. ミレトス生まれのギリシアの哲学者。ギリシア七賢人の筆頭でミレトス学派の祖。西洋哲学史上はじめて万物の存在の原理(アルケー)を、神話的ではなく、科学的に追求し、水こそはすべての根源的なものであるとした。しかし、唯物論というわけではなく、すべてのものは神に満ちており、生命をもつと考えていた。彼はまた、数学者、天文学者としても偉大で、エジプトやメソポタミアの学問を吸収して生かし、日食を予言したり、抽象的幾何学を確立したりして、数々の功績を残した。



1



2



3

ダレイオス一世 — 1世 *Dareios I* 558? B.C.～486 B.C. アケメネス朝ペルシアの王(在位522B.C.～486B.C.)。ダレイオスはギリシア名で、ペルシア名はダーラバウシュ、ラテン名ではダリウスという。前王カンビュセスに謀反をおこした僧ガウマータを、前王の死後、6名の諸侯とともに殺害し、王位についた。ガウマータを正統な王と考えていた諸侯による反乱がその後数年間あいつぎ、国内はいちじるしく混乱したが、ダレイオスは幾多の戦いを経て全国を平定、反乱の指導者や、

王に服従しようとしぬ総督らを殺して、ペルシア帝国の再組織化を推進した。ダレイオスは、広大な領土を20のサトラピー(行政区)に分割し、各サトラピーには王によって任免されるサトラップ(総督)をおいた。また按察使を地方に派遣してサトラップを監視し、あるいは道路網や駅伝制を整備することにより、中央集権体制を強化した。被征服民や土着民に対しては信仰の自由を保証し、慣習を温存させるなど寛大な態度でぞんだ。こうして政治的安定を得、それを背景として領土拡大にのりだ

し、前512年ころ、ドナウ川対岸のスキタイ人を急襲して駆逐し、東方では前510年までにインド北西部のパンジャブ地方を征服した。しかし、前494年にイオニア人によるミレトスの反乱を鎮圧したのち、この反乱に加担したアテナイを打倒すべく、2度にわたってギリシア遠征を企てたが、前490年のマラトンの戦いで決定的な敗北をうけ、その復讐戦を計画中に病死した。写真①はベルセボリス近くにある王の墓。②③はダレイオス宮殿の土台部分のレリーフ。

ダレス John Foster Dulles 1888~1959 アメリカ合衆国の政治家。プリンストン大学などで法律を学んで弁護士となり、第1次世界大戦後のパリ会議をはじめ、多くの国際会議に合衆国代表、顧問として出席するいっぽう、大資本との関係も深めた。1944年、共和党大統領候補デューイの外交顧問となり、ついで「超党派外交」の共和党代表として45年の国際連合創立会議などで活躍。50年にはアチソン國務長官の特別顧問となって日本との講和条約、アメリカ・フィリピン相互安全保障条約などの締結に力をつくした。53年、アイゼンハワー政権の國務長官に就任、西ドイツと日本の再軍備をはかり、集団防衛体制を築いて「まきかえし政策」を推進した。

タレーラン Charles Maurice de Talleyrand-Périgord 1754~1838 フランスの政治家、外交官。片足が不具であったため聖職につき、1778年司祭、88年オータンの司教となる。革命の直前、三部会の僧族議員に選ばれ、89年、革命がおこると率先して国民議院に参加、司法委員となって教会財産の国有化を提議し、教育近代化計画を発表するなど、進歩的僧侶として名を高めた。92年、非公式使節としてロンドンに渡ったが、イギリスとフランスが開戦したためアメリカ合衆国に亡命、フィラデルフィアで土地投機に成功して巨富を得た。総裁政府が樹立されたのち、96年に帰国して外務省にはいり、当時、頭角をあらわしつつあったナポレオンに近づきその顧問となった。99年、ブリュメール18日のクーデタでナポレオンが政権を奪取すると外相に就任。1804年、ナポ

レオンの侍従長となり、6年にはベネvento公として貴族に列せられた。しかし、戦争の是非をめぐってナポレオンと対立し、10年、外相を辞任、ブルボン朝の王政復古の支持者となった。ナポレオン没落後、15年のウィーン会議にルイ18世の外相として出席、巧みな外交術を駆使して戦勝国を手玉にとり、フランスの孤立化回避に成功した。ワーテルローの戦いでナポレオンの百日天下が終わると、同年、ふたたび外相となったが、下院の反感をかいわずか3か月で辞任。30年の七月革命後、一時、駐イギリス大使をつとめた。その著「回想録」全5巻は、死後91~92年に刊行された。

ダレル Lawrence George Durrell 1912~ イギリスの小説家、詩人。アイルランド系の子としてインドに生まれる。初期は、地中海の風物を古典的スタイルでうたう詩人として知られ、「私の国」(1943)、「都市、平野、群衆」(46)などの秀作を著わした。50年代以降は、小説が中心となり、アレクサンドリアの町に取材した「ジュスティヌ」(57)、「バルタザール」(58)、「マウント・オリブ」(58)、「クレア」(60)の4作品からなる「アレクサンドリア四重奏」を発表して文名を高めた。ほかに小説「黒い本」(38)、戯曲「アイルランドのファウスト」(63)など。

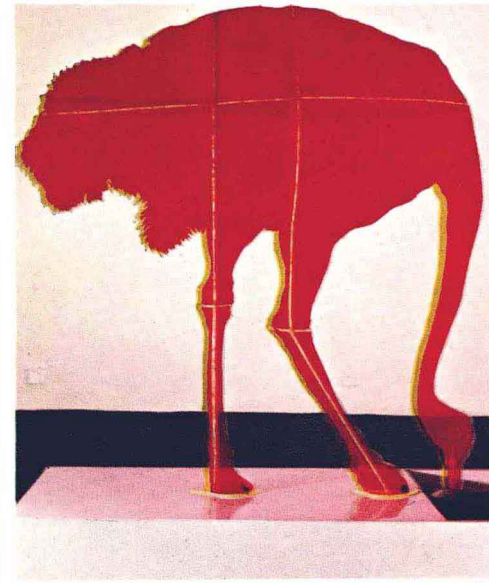
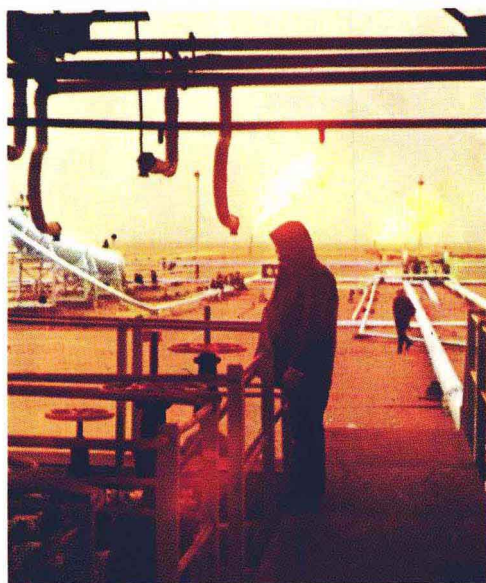
タロイモ *Colocasia antiquorum* (学) 単子葉植物サトイモ科の多年草。インド原産。サトイモに近縁で、古くから熱帯地方の主要食糧作物として栽培されてきた。球状の地下茎を煮たり、焼いたり、ゆでたりして食用に

する。葉柄を食べることもある。

タローきょうだい — 兄弟 Tharaud フランスの小説家兄弟。兄ジェローム(1874~1953)と弟ジャン(1877~1952)が協力して作品を書き、「著名作家ディングレー」(1902)でもその年のゴンクール賞を受賞した。以来合作で「女中主婦」(11)などの小説のほか、「アラビアの祭り」(12)、「サロンのばら」(27)、「イスラエルへの道」(38)などの旅行記も書いた。

たわらやそうたつ ⇨ そうたつ

ダン John Donne 1572~1631 イギリスの詩人。ロンドンの熱心なカトリック教徒の家庭に生まれ、オックスフォード大学に入学、中途退学後、法律学をおさめた。1597年、国庫尚書エジャートン卿の秘書となったが、1601年、卿の姪アン＝モアとの秘密結婚が発覚して解職、投獄された。翌年、赦免されると、生活苦、病氣、思想上の葛藤とたたかいながら詩作をつづけ、イギリス国教会に改宗したのちの15年、聖職につき、21年以降没年までセント＝ポール寺院の副監督をつとめ、説教師として名声を得た。知性と情熱の一元化を追求する「形而上詩人」を代表するひとりとして、代表作に宗教詩「世界の解剖」(11)、「魂の歩み」(12)などのほか、「自殺論」(46)、「説教集」(40、49、60)、「書簡集」(51)などの散文も有名。なお彼は、20世紀にはいっても、T.S. エリオット、イエーツらの詩人に影響を与えている。



たなかすいそ 炭化水素 炭素と水素だけからなる化合物の総称。あらゆる有機化合物の基本となる物質で、天然には石油、石炭、天然ガス、天然ゴム、テルペンなどの主成分としてひろく分布している。一般に、炭化水素を大別すると、炭素原子が鎖状につながって結合している鎖式炭化水素と、いくつかの炭素原子が環をなして結合している環式炭化水素とがある。さらに鎖式炭化水素は、炭素原子間が単結合(飽和)のパラフィン系、分子内に1つ以上の二重結合をもつオレフィン系、三重結合を

もつアセチレン系に分けられる。パラフィン系炭化水素のもっとも簡単なものはメタン CH_4 であって、炭素原子がふえてエタン C_2H_6 、プロパン C_3H_8 、ブタン C_4H_{10} などとなる。都市ガスなどに使われる天然ガスの主成分はメタンであり、プロパンは家庭燃料や自動車用燃料、ブタンはガスイーター用燃料などに使われている。オレフィン系炭化水素のもっとも簡単なものはポリエチレンの原料としてよく知られるエチレン $\text{H}_2\text{C}=\text{CH}_2$ 、アセチレン系炭化水素では各種の合成樹脂や合成繊維の原料とな

るアセチレン $\text{HC}\equiv\text{CH}$ である。いっぽう、環式炭化水素は、芳香族炭化水素と脂環式炭化水素とに分けられる。芳香族炭化水素の代表は環が1つのベンゼン C_6H_6 で、2環になるとナフタリン C_{10}H_8 である。炭化水素は、石油化学工業の発達とともにその用途も増大し、燃料以外に、各種の原料として現代社会に欠かせない物質となっている。写真①イラクの油田。②飛行機の給油。③ナイジェリアの製油所。④プラスチック製の彫刻。⑤炭化水素化合物を主成分とする合成洗剤。

たんい 単位 ものの量を数値であらわすのに、基準となる量の何倍であるかという方法を用いるとき、この基準量を単位という。多くの物理量の単位を、それぞれ無関係に定めることはできないので、ふつう、独立に単位を定めやすい物理量(基本量)を選んで基本単位を定め、ここからほかの物理量について誘導単位を定めている。基本量として、質量、長さ、時間をとったものを絶対単位系、質量のかわりに力をとったものを重力単位系という。今日、国際的に採用されている単位系としては、MKS単位系、CGS単位系などがある。

たんいせいしよく 単為生殖 雌性生殖細胞が受精せずに単独で発生を開始する生殖法。処女生殖ともいう。ワムシ、ミジンコ、ミツバチ、アブラムシ(アリマキ)などにふつうにみられる。ミツバチでは女王バチが交尾をせずに単為生殖をおこなうと雄バチが生まれ、受精すると雌バチ(女王バチと働きバチ)が生まれる仕組みになっている。単為生殖と受精の機作を研究するため、卵に物理的または化学的な刺激を与え、人工的に単為生殖をおこなうこともある。

たんおんかい 短音階 長音階とならんで、ヨーロッパ音楽の基礎となる7音の音階で、第1音と第3音のあいだが短3度をなす。第2・3音、第5・6音のあいだに半音をもち、その他がすべて全音からなるもっとも基本的な自然的短音階と、和声的短音階、旋律的短音階の3種がある。これら短音階にもとづいて短調の曲がつけられる。

たんか 短歌 日本の詩歌の一形式。長歌の対。五・七・五・七・七の5句31文字からなる短詩形の歌で、くみそひともじ(三十一文字)ともいう。長歌の末尾が独立したもの、旋頭歌(せどうか)の第3句が省略されたものともいわれるが、起源は不明。記紀歌謡のころから詠まれ、万葉の時代に一頂点を築き、長歌がしだいに衰微したのに対し、以後もさかんに詠みつけられ、平安時代以降、和歌といえは短歌をさすようになった。今日では、31字の定型によらない自由律短歌も試みられている。

たんかカルシウム 炭化——カルシウムのアセチレン置換体。カーバイドと通称する。化学式 CaC_2 。純粋なものは無色透明の正方晶系結晶で、カルシウムシアナミドと炭素を真空中で熱してつくる。工業的には石灰とコークスを電気炉で加熱溶融して製造する。水と作用してアセチレンを生じるので、有機化合物の原料に利用されたが、石油化学の発達した今日では、おもに石灰窒素の原料や溶接切断用のアセチレンバーナーに用いられる。

たんかさよう 炭化作用 有機物が炭素に富んだ物質に変化する作用。一般に、常圧化で酸素の供給を断って加熱したときにおこり、炭焼きはその好例である。混同されやすいものに石炭を形成する〈石炭化作用〉がある。この場合は古生代のもので200度以下という比較的低温でおこり、高压と長期の反応時間を必要とする。

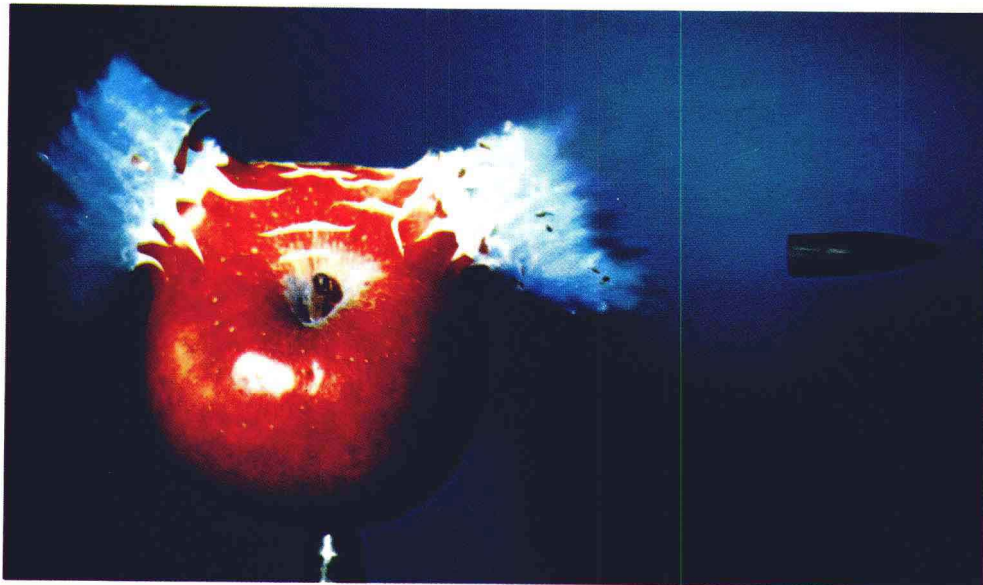
たんかすいそ → [写真項目] 前ページ。

タンガニーカ Tanganyika アフリカ東部、インド洋に面する地方。ザンジバルとともにタンザニア連合共和国を構成する。面積93万7063平方キロ。人口1360万(1972)。北部には、標高5895メートルのキリマンジャロなど高峰がちなり、ビクトリア湖やクレーター高原がある。西端は東アフリカ大地溝帯の急崖で、タンガニーカ湖やルクワ湖がある。住民の大部分はバントゥー語を話すアフリカ人で、約120の部族がある。なお、同地方は先史時代の遺跡が多く、考古学的に重要な地域である。

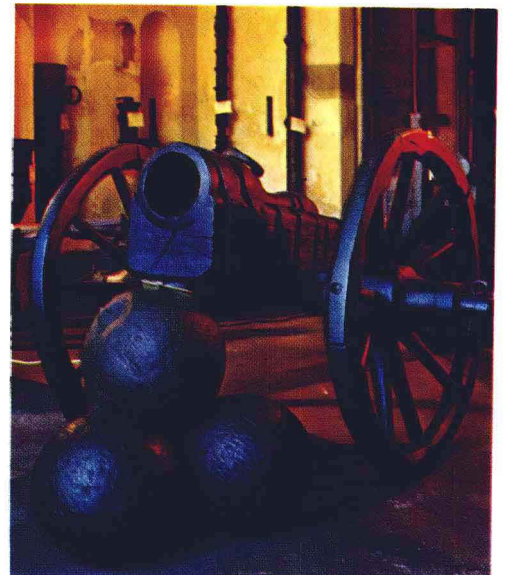
たんがん 単眼 節足動物、とくに昆虫類にみられる小形で単純な構造の目。レンズ状のキチン角膜と視細胞が集合した小網膜からなり、ふつう昆虫類では頭部の1対の複眼のあいだ、またはその前方に3個が三角形に配置されている。物の形態を見分ける能力は低く、光の明暗を感じて中枢に興奮をおこす器官である。

ダンカン Isadora Duncan 1878～1927 アメリカ合衆国の女流舞踊家。アイルランド人の音楽教師を母として生まれ、早くからバレエを習ったが、その形式的な部分に不満で、自由で創造的な舞踊を考えた。1899年、シカゴに出て自作の舞踊を発表したが認められず、翌年パリへ渡って同地で高く評価された。ギリシアふうのチュニックと裸足で新鮮な刺激を与え、近代舞踊に大きな影響をもたらした。ロシアのエセニンとの恋愛は名高い。

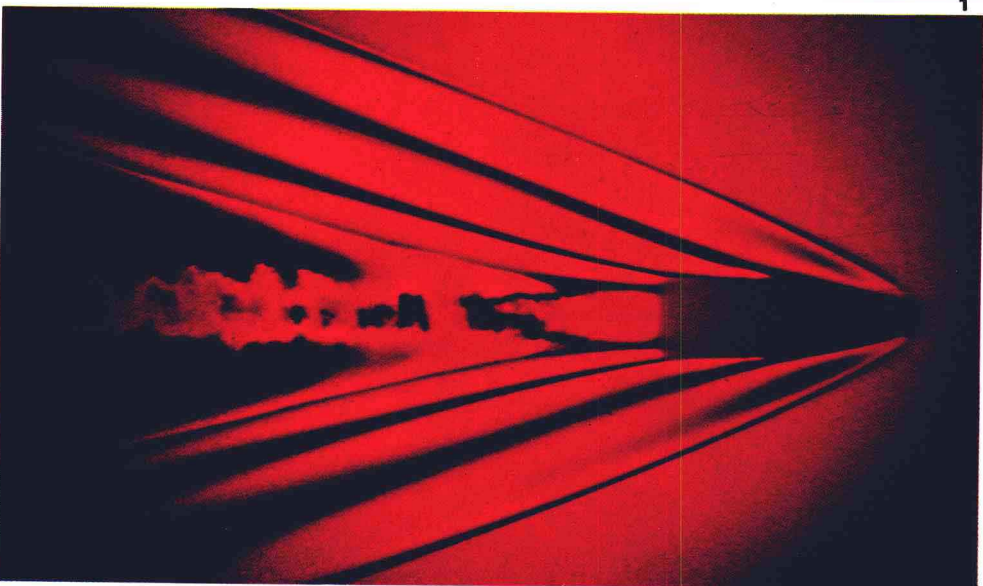
だんがん → [写真項目]



1



3



2



4

だんがん 弾丸 破壊、殺傷を目的として使用される銃砲の弾。火砲用の砲弾と小銃・機関銃用の銃弾とに分けられる。一般に、先端のどがった中空あるいは中実の紡錘形をなし、長さは直径の数倍で、内腔に炸薬が装填されている。現在のような形態のものが普及したのは、19世紀中ごろになってからであるが、弾丸の原初形態は、先史時代の投石や石、木片を用いた種々の飛道具にまでさかのぼる。弾丸そのものの歴史は、中国で火薬が発明された1000年ころにはじまる。当時の中国では鉄の容器に

火薬をつめ、それを投石器で投擲して破裂させていた。その後、火薬は西洋にも伝わり、火砲用に使われるようになった。もっとも、14～16世紀には、石製の砲弾(写真③)が用いられ、金属製のものが出現したのは18世紀にはいつてからである。しかし19世紀には、16世紀に考案された施条砲に改良が加えられて、発射速度や命中精度が飛躍的に向上し、ナポレオン戦争のとき以来、火薬を内蔵した、爆発力の大きな金属製砲弾がひろく使われるようになった。いっぽう、銃弾は、19世紀前半までは球

状の鉛弾が使われていたが、19世紀中ごろに拡張式の椎実形小銃弾が考案され、19世紀末には無煙火薬も発明されて、威力は大幅に増大した。銃弾の口径は時代とともに小さくなり、18世紀末に17～19ミリもあったものが、南北戦争時に10～12ミリ、第2次世界大戦中に6.5～11ミリとなり、現在使われている米国製M16ライフルは、口径5.56ミリの弾丸を、初速では秒速1000メートルで発射する(写真②)。写真①はリングを貫通したライフル弾。③は戦車や艦艇の装甲を貫通して爆発する徹甲弾。

たんかんえ

たんかんえん 胆管炎 肝臓の内側の胆管と外側の肝管、胆嚢管、総胆管などにおこる炎症。その多くは十二指腸潰瘍の炎症の波及であるが、腸チフス、コレラ、敗血症につづいておこることもある。症状は原因によってさまざまであるが、肝臓の腫れと、熱をとまなう黄疸が一般にみられる。

たんかんせん 湛甘泉 1466～1560 中国の明の儒学者。甘泉は号、名は若水、字は元明。1505年、進士に合格し、翰林院編修をはじめ、南京吏部、礼部、兵部尚書などを歴任し、70歳ころ退官した。心学の先駆者陳白沙に師事し、静座沈潜のくふうによって聖人となるための修養方法を追求し、同時代人の王陽明とは激しく対立、当時の儒学界を二分したという。著書は、「心性図説」「格物通」「甘泉集」など多数。

タンギー ——— |写真項目|

たんきぎかい 短期議会 1640年に召集されたイギリスの議会。わずか3週間で解散したため、同年秋に召集された長期議会と対比させてこの名がある。国王チャールズ1世は、1629年に議会を解散して以来、議会をいっさい開かず、専制政治をおこなってきたが、〈同君連合〉のもとにあるスコットランドにアングリカン=チャーチ(イギリス国教会)の制度を強制しようとして、長老派の反乱を招き、これを鎮圧する軍費を調達するため臨時課税が必要となった。こうして召集されたのが短期議会で、国

王は課税承認を優先するよう議会に求めたが、ビムを中心とする議会の革新派は、11年にわたる国王の失政を攻撃、その苦情処理が先決であるとしてゆずらず、結局、国王は解散を余儀なくされた。

たんきやくるい(目) 端脚類 *Amphipoda* (学) 甲殻類の1目。異脚類ともいう。体は小さく、左右に扁平で、小動物を捕食できるようなはさみをもっている。腹部は6節に分かれ、前の3節には腹脚、後ろの3節には尾脚がある。端脚類の大部分を占めるヨコエビ類は、主として海底に大群をなしてすみ、サケ、ニシン、タラなどの餌として重要で、ハマトビムシ、イソヨコエビなどがある。

たんきゅう 単球 血液中の白血球の一種で、単核の細胞。単核白血球ともいう。血球中でもっとも大きく、直径は20ミクロン内外で、流血中の全白血球の4～8パーセントを占める。細菌に対する食作用はきわめて活発で、炎症をおこした組織中に多くみられる。発生部位は骨髓と考えられている。

たんきんばい 譚鑫培 1847～1917 中国の京劇俳優。清末の名優譚叫天の子で、小叫天ともいわれる。父と同じく、程長庚の一座〈三慶班〉に属し、老生(立役)として活躍、みずからの資質を生かし、程長庚の豪放雄大な歌調を改めて、哀艶優美な〈譚派〉を創始し、近代京劇の主流となった。今日の京劇の立役の唱は、いずれも譚派の流れをくみ、都会的で甘味のある柔らかな節まわし

を特徴とする。1890年前後を全盛とし、西太后の特別の庇護を受けた。子の小培、孫の富英、曾孫の元寿も俳優。

タンクしゃ ——— 車 荷台にタンクを装備、搭載したトラックや鉄道貨車のこと。水、石油、アルコール、化学薬品などの液状物質、LPガスなどのガス状物質、セメントなどの粉状物質などの貨物輸送に用いられる。トラックの場合は、タンクローリーともいう。

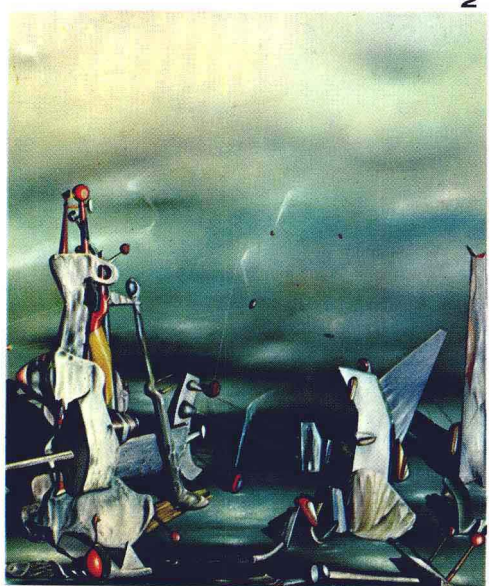
タングステン tungsten (英) 記号W、原子番号74、原子量183.85、周期表第VI族に属する金属元素。ウオルフラムともいう。天然には、少量ではあるが、ひろく分布している。おもな鉱石は、灰重石、鉄マンガン重石などがある。単体は、鉱石から酸化物としてとり出し、これをけい素やナトリウムなどの金属と加熱するか、炭素と1100度以上に熱するなどして得られる。こうして製造されるのは粉状のタングステンであって、ふつう冶金して線状にする。単体は、白金に似た白色ないし灰白色の光沢ある金属である。融点3382度、比重19.24。湿った空气中で酸化されやすく、とくに粉末のものは500度くらいで急激な酸化がおこる。熱水中でも酸化されやすく、薄い塩酸などにも少量とける。純金属としてのタングステンは、電球などのフィラメント材料に、合金としては高速度鋼や永久磁石鋼などに用いられている。

タンゲート 党項 中国北西部に居住していたチベット系遊牧民。中国で羌(チャン)と呼ばれる部族のひとつで、



タンギー Yves Tanguy 1900～55 フランス生まれのアメリカ合衆国の画家。海軍将校の子としてパリに生まれ、彼も長じて商船の乗組員となって、アフリカ、南アメリカなどの各地をまわる。1922年、パリに帰ったとき、ブレベールを通じて前衛芸術家と知り合ったが、翌年、ギヨーム画廊の展覧会に出品されていたキリコの形而上絵画「子供の脳」を見て感動し、画家となる決意をした。完全な独学による出発であったが、25年には、マッソン、エルンスト、ミロらシュルレアリストのグル

ープに加わり、27年にパリで開いた最初の個展によって、シュルレアリスムの重要な新人として脚光をあびるにいたった。写真①は、同年の作品で「遊び」部分。彼は、他のシュルレアリスム画家と異なっており、最初から、現実をもとに描くことを拒否し、理性を完全に除外して、原始的な印象に根ざした直観の世界の表現を追求している。30～31年のアフリカ旅行ののちの作品は、それ以前にはみられなかった、新しい幻想的な形象が加わり、より豊かな世界を展開するようになった。その頂点として、「意



情な日々」(37 写真②部分)があげられる。39年、戦乱を避けて合衆国に渡り、42年、市民権を得て、コネティカット州ウォーターベリーに定住、以後、ふたたびヨーロッパにはもどらなかった。「石の窓のある城」(写真③部分)は晩年の作であるが、深海、あるいは砂漠を思わせる不思議な空間に、現代文明の利器が化石化したような奇妙な物体を配して、寂寥とした心象風景をくりひろげている。他の主作品は「夏の4時、希望」(29)、「増加するアーチ」(54)など。